

平安京左京二条二坊二・三町
二条城北遺跡

2012年

古代文化調査会

平安京左京二条二坊二・三町
二条城北遺跡

2012年

古代文化調査会

例 言

1. 本書は、古代文化調査会が京都市上京区藁屋町 536 - 50 において、マンションの建設に伴い実施した平安京左京二条二坊二・三町、二条城北遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 発掘調査は株式会社ダイマルヤより委託を受けた古代文化調査会の上村憲章が担当した。
3. 調査にあたっては、京都市文化市民局文化財保護課の指導を受けた。
4. 本書の編集は上村がおこなった。
5. 図面及び遺物整理、遺構・遺物の製図は上村が分担し、遺物の実測は板谷桃代、水谷明子がおこなった。
6. 本書の執筆は上村がおこなった。
7. 本書で使用した方位及び座標の数値は世界測地系（新測地系）平面直角座標系Ⅵによる。記載した数値は m 単位で、水準は T.P.（東京湾平均海面高度）である。
8. 本書で使用した地図は、京都市都市計画局発行の 2500 分の 1 の地図（聚楽廻）を調整し、使用した。
9. 土壌の色調の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。
10. 遺物番号は実測図・写真ともに共通している。
11. 発掘調査及び遺物整理に際して、下記の方々の御指導・御協力を得ることができた。記して感謝の意を表します。（所属・敬称略、五十音順）

家原圭太 宇野隆志 馬瀬智光 岡田直己 北田栄造 杉浦真悟 鈴木久史
西森正晃 長谷川行孝 堀 大輔 宮原健吾 森田一徳 森田一道 八木匡夫
（株）明輝建設 （株）大高建設 （株）ダイマルヤ （財）京都市埋蔵文化財研究所
（有）京都編集工房

本文目次

平安京左京二条二坊二・三町、二条城北遺跡

I	調査の経緯	1
II	調査の経過	1
III	遺構	4
IV	遺物	9
V	小結	19

図版目次

図版 1	遺跡	1	調査地近景（北から）
		2	A区第1面東部（北から）
図版 2	遺跡	1	A区第1面西部（北西から）
		2	B区第1面全景（東から）
図版 3	遺跡	1	A区第2面東部（北から）
		2	A区第2面全景（北東から）
図版 4	遺跡	1	A区第2面中央部～西部（北東から）
		2	A区第2面中央部～西部（北西から）
図版 5	遺跡	1	A区第2面東部（西から）
		2	A区第2面西部（西から）
図版 6	遺跡	1	A区第2面中央部～西部（東から）
		2	B区第2面全景（東から）
図版 7	遺跡	1	B区西部拡張部（南東から）
		2	B区西部拡張部・溝 27（南東から）
図版 8	遺跡	1	A区溝 38（東から）
		2	A区溝 41（東から）
		3	A区溝 38 西壁断面（東から）

	4	A区溝 41 西壁断面 (東から)
	5	A区東溝 38 西側断面 (東から)
	6	A区東溝 41 西側断面 (東から)
	7	A区溝 38 Y-22,810 セクション断面 (西から)
	8	A区溝 41 Y-22,810 セクション断面 (西から)
図版 9	遺跡	1 A区東壁溝 38 (西から)
		2 A区東壁溝 41 (西から)
		3 B区溝 27 (西から)
		4 B区全景 (南西から)
		5 B区礎石 12 (北から)
		6 A区 Pit52 (東から)
		7 A区 Pit87・88 (東から)
		8 A区 Pit62 (東から)
図版 10	遺物	A区溝 38 出土遺物
図版 11	遺物	A区溝 38 出土遺物
図版 12	遺物	A区溝 38 出土遺物
図版 13	遺物	A区溝 38 出土遺物
図版 14	遺物	A区溝 38 出土遺物
図版 15	遺物	A区溝 38・A区溝 38 最下層・A区溝 41 出土遺物
図版 16	遺物	A区溝 38・B区溝 27・A区土壙 03・A区土壙 17・A区攪乱出土遺物

挿 図 目 次

図 1	調査地位置図	1
図 2	平安京条坊と調査地位置図	2
図 3	四行八門と調査位置関係図	2
図 4	A区断面実測図	5
図 5	A区平面実測図	6
図 6	B区平面、断面実測図	7
図 7	A区溝 38 最下層出土土器実測図	9
図 8	A区溝 38 出土土器実測図	10

図9	A区溝38出土土器実測図	11
図10	A区溝38出土土器実測図	12
図11	A区溝38出土土器実測図	13
図12	A区溝38出土土器実測図	14
図13	A区溝38出土土器実測図	15
図14	A区溝38出土土器実測図	16
図15	A区溝41出土土器実測図	16
図16	B区溝27出土土器実測図	16
図17	A区土壙86出土土器実測図	16
図18	出土瓦拓影・実測図	17
図19	町割りと溝関係図	19

表 目 次

表1	遺物概要表	18
表2	掲載土器一覧表	21

平安京左京二条二坊二・三町 二条城北遺跡

I 調査の経緯

調査地は京都市上京区藁屋町 536 - 50 である。当地は周知の遺跡、平安京左京二条二坊二～三町跡（大炊御門大路含む）、および二条城北遺跡（弥生時代）に該当する。ここにマンションの建設が計画され、京都市文化市民局文化財保護課による試掘調査の結果、平安時代前期の大炊御門大路の北側溝、南側溝や三町部分にある冷然院北限溝が認められた。発掘調査においては、京都市の指導のもと施主との三者協議の結果、当調査会が2011年11月1日より発掘調査をおこなうこととなった。

II 調査の経過

敷地は平安京左京二条二坊二～三町、大炊御門大路部分にあたる。敷地の南側は同坊三町で、冷然院（冷泉院）があった。冷然院は弘仁年間に造営されたとされ、弘仁7（816）年に嵯峨天皇が行幸された記事がある（『類聚国史』巻31、弘仁7年8月24日条）。嵯峨天皇はここで皇位

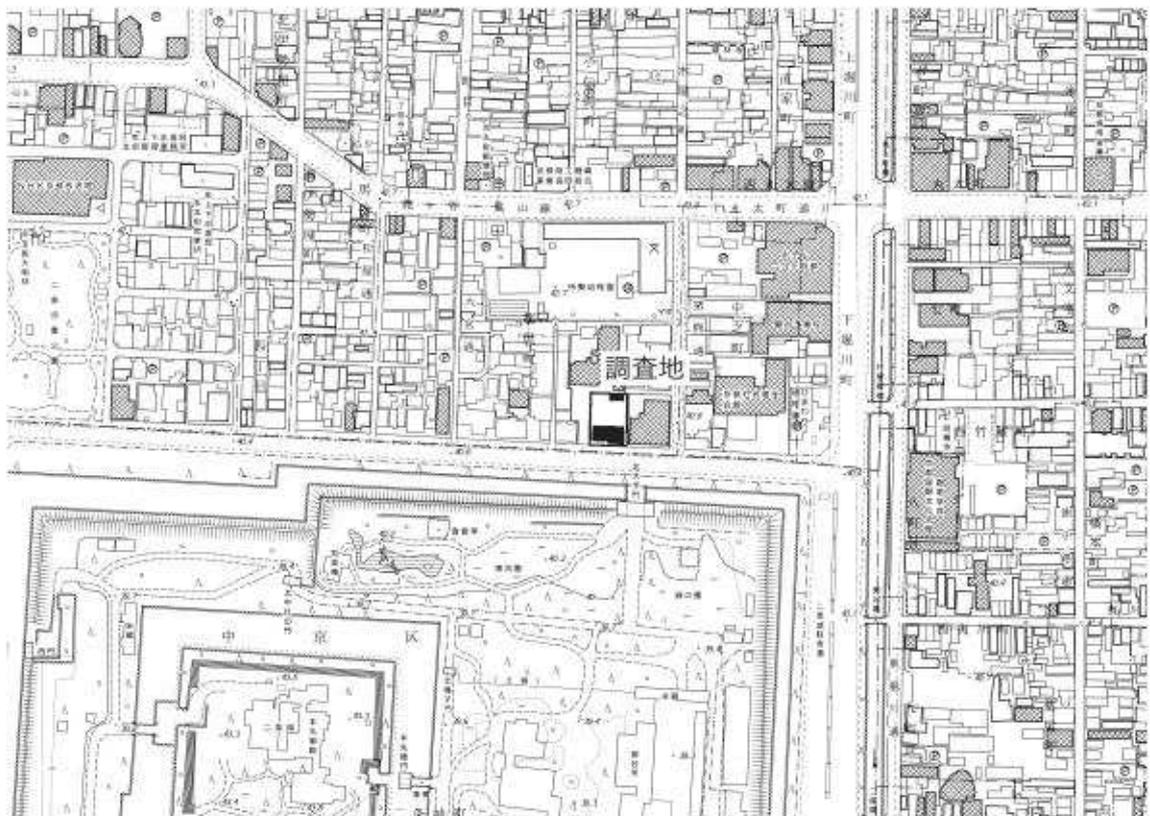


図1 調査地位置図 (1/5,000)

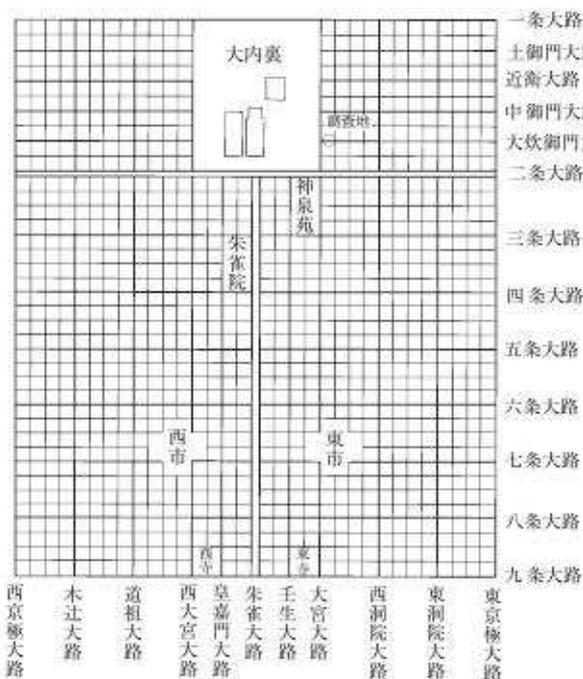


図2 平安京条坊と調査地位位置図

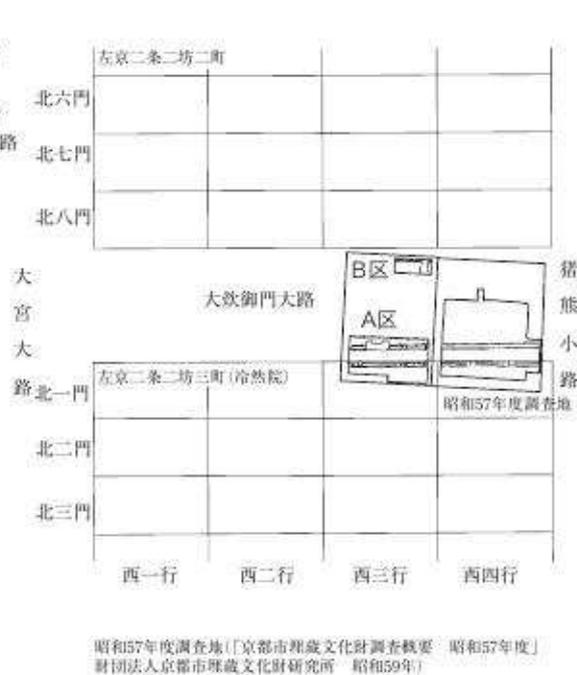


図3 四行八門と調査位置関係図 (1/2,000)

を淳和天皇に譲り、後院とした。承和元（834）年、嵯峨上皇が嵯峨院に移った後は、承和9（842）年、皇太后橘嘉智子の御所となり、さらに同年仁明、斉衡元（854）年に文徳天皇らが仮御所として利用しているが貞観17（875）年に焼失している。元慶4（880）年に再建され陽成上皇の御所として使われる。延喜17年（917年）の冬に京中の井泉が枯渇した際には、上皇は東北の門を開き庶人に池水を汲ませている（『日本紀略』延喜17年12月19日条）。天曆3（949）年に陽成上皇が崩御、その一ヶ月余り後、再び焼失する。天曆8（954）年に再建、これを機に名称も冷然院から冷泉院と改められた。これは「然（=燃）」という字を嫌ってのこととされている。冷泉院は村上天皇の里内裏、冷泉上皇の御所となったが天禄元（970）年には御厨および四面門をのこして焼失してしまう。その後も幾度か火災にあい再建をくり返すが天喜3（1055）年にとりこわされ、以後の状況は不明であるが、平安前期・中期の二百年以上にわたり代々皇室に利用されてきた。中世には酒屋などがあったらしいが詳しいことは明らかでない。同坊二町は平安時代には諸司厨町の一つである神祇官町があった。大炊御門大路と猪熊小路交差点付近は、『平家物語』嘉応2（1170）年10月16日に出てくる、平清盛の孫である重盛の次男資盛と、時の関白藤原基房との接触事件、^{てんがにのりあい}「殿下騎合事件」の舞台となったところでもある。『玉葉』『百鍊抄』によると実際には嘉応2（1170）年7月3日の事件を元に描かれたものらしい。

近世には二条城の広大な占地に含まれ、その北側一帯は京都所司代上屋敷や所司代の関連の施設が設置され、明治をむかえるまで徳川幕府の京都支配の拠点となる。

敷地の南に大炊御門大路南側溝と冷然院北限溝の調査を目的にA区（193.1㎡）、北端に大炊御門大路北側溝の調査を目的としてB区（40㎡）を設定し、平成23（2011）年11月1日から同年12月20日までの間、それぞれ2面にわたって調査を行った。A区は当初、場内への通路

を確保するために幅4mほどの通路を残し、A区東、A区西と2分して調査を行い、最終段階で通路部分の掘下も行い調査を終了した。

なお、調査の方法としては、(財)京都市埋蔵文化財研究所が作成した平安京の条坊復原モデル60を使用し、平面直角座標系VIによる4mメッシュのグリッドを設定し、遺構遺物の記録をとる方法をおこなった。

平安京左京二条二坊二、三町の築地四隅の座標値(新測地系)はそれぞれ以下の通りである。

左京二条二坊二町

北西	X= -108,988.12m	北東	X= -108,987.64m
	Y= -22,891.35m		Y= -22,771.96m
南西	X= -109,107.52m	南東	X= -109,107.03m
	Y= -22,890.86m		Y= -22,771.47m

左京二条二坊三町

北西	X= -109,137.40m	北東	X= -109,136.91m
	Y= -22,890.76m		Y= -22,771.37m
南西	X= -109,256.79m	南東	X= -109,256.30m
	Y= -22,890.27m		Y= -22,770.88m

Ⅲ 遺 構

現地勢を見ると、現表土は A 調査区北辺の西端が 40.80 m、東端が 40.72 m とやや東下がり
で堀川に向かい徐々に低くなる。南北方向は、B 区西側当りで 40.90m、敷地中央の南端辺りで
40.50 m と南下がりである。地山面も西 A 区の西端で 40.10 m、東端で 40.0 m と東側で低くなっ
ている。B 区の西側で 40.3m で南下がりである事がわかる。すなわち南東方向に緩やかに下り、
堀川へ向かっているものと考えられる。

A 区では、現表土下約 0.6 ～ 0.8m 程で遺構面に達する。B 区では東側でやや浅く 0.4m、西側
では 0.6m ほどで遺構面に達する。ベースはよく締まった砂礫層が基本で、部分的に黄褐色系の
泥砂がある。整地層はおおまかに 2 層ほどあるがいずれも江戸時代以降のもので、所司代関連の
施設建設に伴うものと思われる。

以下、A・B 区で検出調査した主な遺構について記述する。なお遺構番号は両調査区で別に付
しているため両区で連続した番号ではない。

平安時代前期

A 区溝 38 (図版 3～6 の 1・8 の 1、3、5、7・9 の 1、図 4・5)

A 区の調査区南寄りに東西方向の溝を検出。幅は 0.9 ～ 1.2 m で、深さは 1.1 ～ 1.2m を測り、
溝の底場の標高は調査区西側で 39.06m、東側では 38.80m と 0.26m ほど落差がり東側が低くなっ
ている。側壁はオーバーハングして崩れている部分も認められ、かなり水が流れていたものと考え
られる。堆積は最下層と下層、中層、上層と分けられるが中層～上層にかけては特に炭、焼土
片が多量に含まれていた。また多量の平安京 I 期新～II 期古に比定できる土器を含んでいた。

この溝はこの敷地の東隣の昭和 57 年度に(財)京都市埋蔵文化財研究所の調査^{注1}によって確認
された溝の続きで、冷然院の北限の溝と考えられている。平成 6 年にはさらに西隣の敷地におい
ても続きが確認^{注2}されている。

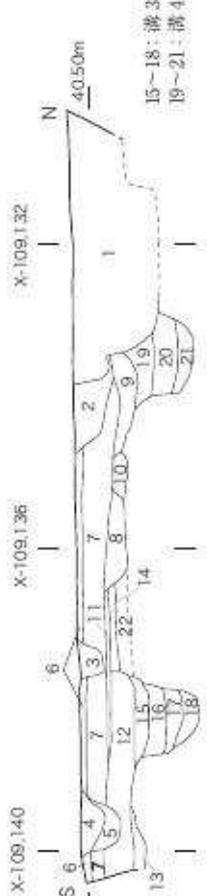
A 区溝 41 (図版 3～6 の 1・8 の 2、4、6、8・9 の 2、図 4・5)

A 区の調査区北側で東西方向の溝を検出した。溝 38 と平行に、心々で約 4.6 ～ 4.7m ほど北に
位置する。深さは 0.85 ～ 0.90 m、幅は 1.2 ～ 1.4 m で、調査区西半及び東部で攪乱されていた。
溝底部の標高は調査区の西端で 39.12m、中ほどで 39.16m、東端で 39.15 m で高低差はわずかで
ほぼ水平と見れる。溝 38 底部との標高差は、調査区東部では 0.35m、西部では 0.06 m ほど高く
なっている。溝 38 に含まれていた炭、焼土は多くなく、出土遺物は比較にならないほど少ない
状態であったが平安京 I 期新～II 期古くらいの遺物が出土している。

この溝も昭和 57 年度の調査や平成 6 年の調査で検出されており、大炊御門大路の南側側溝と
考えられている。条坊復元モデル 60 の数値と比較すると、モデルより 0.7 ～ 0.8 m ほど北にずれ
ているが、誤差範囲内と言える。

B 区溝 27 (図版 6 の 2・7・9 の 3、4、図 6)

A 区西壁実測図

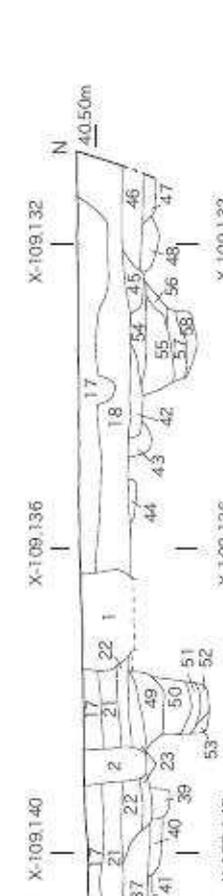


- 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 礫混、瓦、土管、石多量
- 2 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 3 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 4 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 コンクリート
- 5 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1-5cmまでの礫混 炭・焼土混
- 6 10YR2/3 暗褐色砂泥
- 7 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1-5cmまでの礫混 炭・焼土・瓦混
- 8 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 φ1-6cmまでの礫混 炭・焼土・瓦混
- 9 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 φ1-17cmまでの礫混 炭・焼土混

- 10 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1-4cmまでの礫混 炭・焼土・土器片混
- 11 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭・焼土混
- 12 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1-5cmの礫、焼土・炭・土器片混
- 13 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ1-5cmの礫、焼土・炭・土器片混 炭っこ
- 14 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ1cm前後の礫含む 炭・焼土混

- 15 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 φ1-4cmまでの礫混 炭・焼土・土器片・瓦混
- 16 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1-7cmまでの礫混 炭・焼土・土器片混
- 17 10YR2/3 暗褐色砂泥 φ1-5cmまでの礫混 炭・焼土・土器片混
- 18 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1-4cmまでの礫混 炭・焼土・土器片混
- 19 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1-4cmまでの礫混 焼土・瓦混

A 区中央部南北断面



- 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 コンクリート
- 2 10YR3/3 暗褐色砂泥 埴ビバヤ
- 3 10YR3/1 黒褐色砂泥 焼土
- 4 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ3-5cmの礫、瓦含む
- 5 10YR3/2 黒褐色砂泥 埴ビバヤ
- 6 10YR3/2 黒褐色砂泥 土管
- 7 10YR3/3 暗褐色砂泥 埴、瓦
- 8 10YR4/3 暗褐色砂泥 コンクリート
- 9 10YR4/3 暗褐色砂泥 土管
- 10 10YR3/1 黒褐色砂泥 φ15cm 菅の層
- 11 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 12 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ3-5cmの礫、瓦含む
- 13 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭少量混
- 14 10YR2/3 暗褐色砂泥 φ1-5cmの礫、焼土・炭混 炭っこ多い
- 15 10YR4/3 暗褐色砂泥 埴っこ多い
- 16 10YR4/4 褐色砂泥
- 17 10YR4/3 暗褐色砂泥 炭混
- 18 10YR4/3 暗褐色砂泥
- 19 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ2cmまでの礫、炭少量含む
- 20 10YR4/3 暗褐色砂泥 φ2cmまでの礫、炭少量含む
- 21 10YR4/3 暗褐色砂泥 炭混

- 22 10YR3/3 暗褐色砂泥
- 23 10YR2/3 暗褐色砂泥
- 24 10YR4/3 暗褐色砂泥 φ2cmまでの礫、焼土・炭少量含む
- 25 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 φ10cmまでの礫、炭・焼土・土器片混 炭っこ含む
- 26 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ1-10cmまでの礫多く混、炭・焼土混 炭っこ多い
- 27 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ15cmまでの礫、瓦片多量、炭・焼土・土器片混
- 28 10YR4/4 褐色砂泥 φ15cmまでの礫、炭・焼土多量に混 瓦混
- 29 10YR2/3 暗褐色砂泥 炭・焼土混
- 30 10YR3/3 暗褐色砂泥 炭混
- 31 10YR4/3 暗褐色砂泥 φ1-3cmまでの礫、炭・焼土混
- 32 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭・焼土・瓦混、10YR3/2 黒褐色砂泥
- 33 10YR3/3 暗褐色砂泥 炭・土器片混
- 34 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1-3cmの礫、焼土・炭混 炭っこ
- 35 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1-5cmの礫、焼土・炭混
- 36 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ1-5cmの礫、焼土・炭・土器片混 炭っこ

- 37 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1-5cmの礫、焼土・炭・土器片混
- 38 10YR3/3 暗褐色砂泥 焼土・炭混 炭っこ
- 39 10YR3/4 暗褐色砂泥 炭・焼土混
- 40 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 φ1-7cmの礫、炭・焼土混
- 41 10YR4/4 褐色砂泥 炭・焼土混
- 42 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1-7cmの礫、炭・焼土混
- 43 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1-5cmの礫、炭・焼土混 炭っこ
- 44 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭混
- 45 25Y3/3 暗オリーブ褐色砂泥 1-5cmの礫、炭・焼土・土器片混
- 46 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1-7cmの礫、炭・焼土・土器片・瓦混
- 47 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1-15cmの礫、炭・焼土・土器片・瓦混
- 48 25Y3/3 暗オリーブ褐色砂泥 φ1-10cmの礫、炭・焼土・瓦混
- 49 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭・土器片多く混
- 50 10YR3/3 暗褐色砂泥 土器片多く混、炭混
- 51 10YR4/3 暗褐色砂泥 φ1-7cmの礫多く混、炭・焼土・土器片混

- 52 10YR4/3 暗褐色砂泥 φ1-5cmまでの礫、炭・焼土・瓦片混
- 53 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ5cmまでの礫混
- 54 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1-10cmの礫、炭・焼土・土器片・瓦混
- 55 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ1-5cmの礫、炭・焼土混
- 56 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 φ3cm人の礫含む
- 57 10YR2/2 灰黄褐色砂泥 φ1-5cmの礫混、瓦多く混
- 58 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ20cmまでの礫多く混
- 59 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ1-3cmまでの礫、炭・土器・瓦片混
- 60 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 φ1-5cmまでの礫、炭・焼土・土器片混
- 61 10YR4/3 暗褐色砂泥 φ1-7cmの礫多量、炭・焼土・土器片混
- 62 10YR4/3 暗褐色砂泥 φ1-5cmの礫多量、炭混
- 63 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1-10cmの礫、炭・焼土・土器・瓦片混
- 64 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ1-5cmの礫、炭・焼土混
- 65 25Y3/2 暗褐色砂泥 φ1-5cmの礫、炭・焼土混
- 66 10YR2/2 黒褐色砂泥 φ1-5cmの礫混、瓦多量を含む

図4 A 区断面実測図 (1/100)

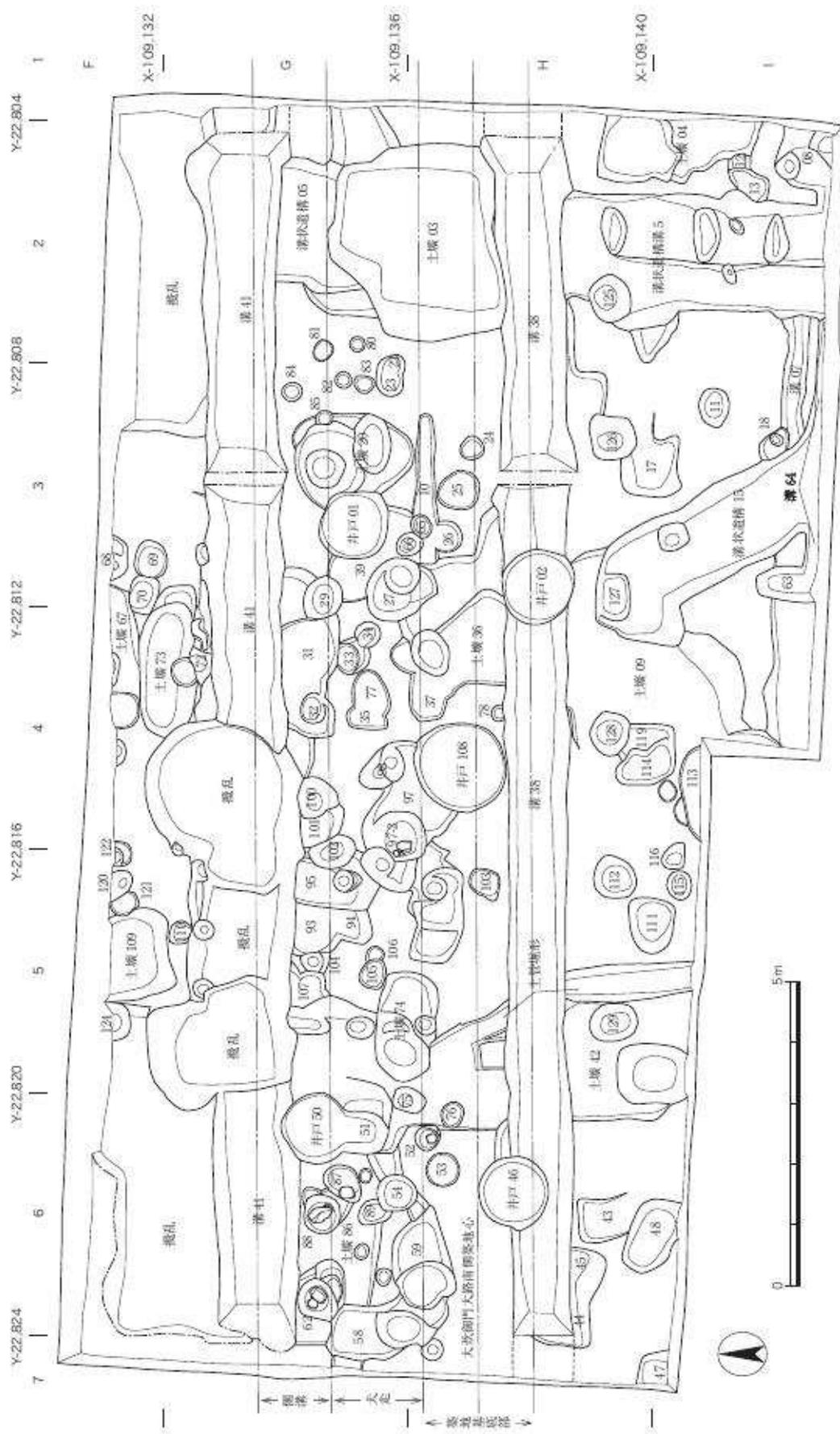


图5 A区平面实测图 (1/100)

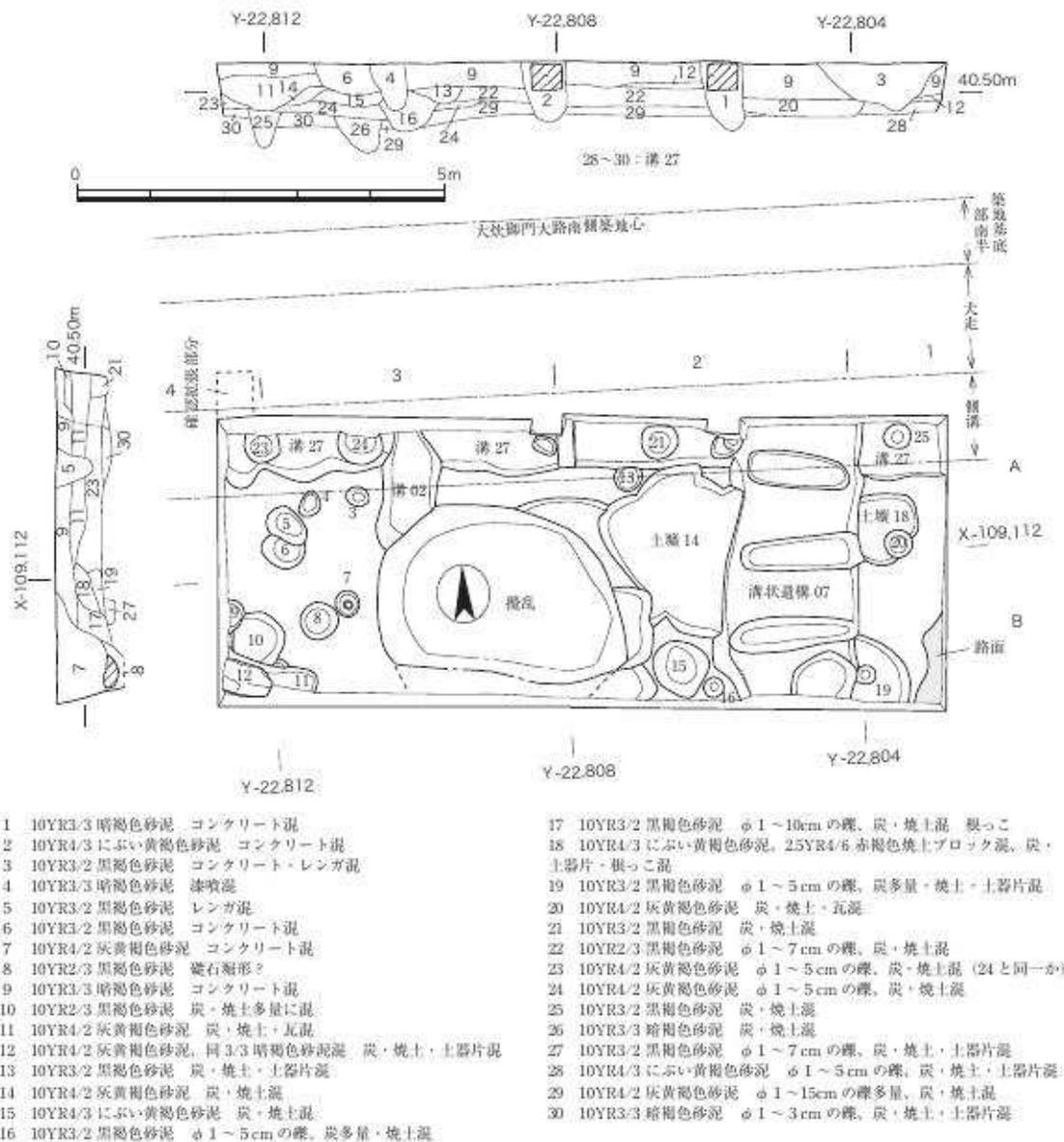


図6 B区平面、断面実測図(1/100)

調査区は大炊御門大路の北側溝が検出できるようになるべく敷地界に近づけて設置した。その結果、溝27の南肩を検出した。調査終了時に断割り調査にて北肩の上がりを確認した。西壁付近では溝幅1.05m、深さ0.14mほどを測る。南側溝に比べ非常に浅く、かなり削平を受けているものと思われるが、条坊復元モデル60と比較するとほぼその位置に収まっていることがわかる。出土遺物は少なく、平安京I期~II期の土器、瓦が少量ある。

鎌倉時代~室町時代

A区土壇86(図版4の2・5の2、図5)

調査区の西側で検出。溝41の南肩に一部かぶり、南北2m、東西2.5mほどで、深さ0.10~0.15mを測る不整形な遺構である。10YR3/2黒褐色泥砂土が堆積。平安京VI期中頃の遺物が出土

している。鎌倉時代の遺構である。

A区溝 64 (図版1の2、図5)

A区の東部、南壁際で東西方向の落ち込みを検出。溝の北肩と思われ、10YR2/3 黒褐色砂泥が堆積し、径12cmまでの礫、炭・焼土が混じる。深さは0.25 mを測る。平安京Ⅸ～Ⅹ期の土器類が出土する。室町時代後期の遺構である。

B区柱穴 25 (図版9の3、4、図6)

B区の北東部で溝27を切って成立している。径0.35～0.40 mで、深さ0.14 mを測る。10YR3/2 黒褐色泥砂が堆積し、平安京Ⅸ～Ⅹ期の土器類が出土する。室町時代後期の遺構である。

江戸時代以降

A区溝状遺構 05 (図版1の2、図5)

A区の東側で南北方向の溝状遺構を検出した。幅1.8～2.0 m、深さ0.30 mを測り、10YR3/3 暗褐色砂泥が堆積し、径0.15 mまでの礫、焼土・炭・土器片が混じる。底部はほぼ平らであるが、東西0.8～0.9 m、南北0.40～0.45 m、深さ0.08 m前後の凹みが数ヶ所確認できる。B区東部の溝状遺構07にも共通する特徴があり位置的にも重なるため続く遺構と見ている。

A区柱穴 112、125～129 (図版1の2・2の1・3・4、図5)

溝38の南側で東西方向に並ぶ柱跡を検出した。東から125～128、112、129と並ぶ径0.65～0.80 m、深さ0.2 mほどを測る。10YR3/4 暗褐色砂泥が堆積し炭、焼土混が混じる。時期を決められる出土遺物が無かったが、土壙112から染付磁器の出土を確認したので江戸時代以降のものであると判明した。間隔は2.4 mで5間分を確認、北側にも、南側にも対応する遺構が見られないことから柵か塀の可能性がある。

B区礎石 12 (図版2の2・9の5、図6)

調査区の南西角で検出。南北0.48 m、東西0.70 m以上、厚さ0.18 mで平らな面を上にして設置されている。上面の標高は40.24 mである。幕末以降のものとしている。

この他A区の西側で礎石をもつ柱穴が数基認められるがいずれも江戸時代の遺物が出土しており、京都所司代の時期のものと考えられる。

IV 遺物

出土遺物は整理箱にして130箱ある。このうち104箱は冷然院の北隈溝からの出土遺物で平安時代の前期のものである。中世は遺構としては少なかったが、前半後半それぞれ混入品として出土している。近世のものは京都所司代関係の遺物と見られる。その中から主なものについて記述する。なお、時代区分は平安京の土器編年をもとにおこなう。

A区溝38最下層土器 (図版15、図7)

土師器椀A(1)、同皿A(2)、須恵器杯A(3・4)、須恵器鉢(5)、緑釉陶器椀(6～8)がある。緑釉椀6はベタ高台で平安京近郊産、7・8は蛇ノ目高台で東海産の可能性はある。

A区溝38出土土器 (図版10～15、図8～14)

土師器は椀A(9～22)、同杯A(23～34)、皿(35～55)、杯B身(56～67)、杯B蓋(68～72)、高杯(73～81)、甕(82～94)、黒色土器は杯(95～97)、皿(98)、高台付皿(99～102)、高台付椀(103・104)、鉢(105～107)、甕(108～112)、風字硯(113)がある。須恵器には杯A(114～119)、杯B蓋(120～124)、杯B身(125・126)、鉢(127～130)、甕(131)、壺(132・133)、壺A蓋(134・135)、壺A(136)、円面硯(137)、風字硯(138・139)がある。緑釉陶器は皿(140～157)、陰刻花文輪花角皿(158)、輪花角皿(159)、椀(160～184)、陰刻花文輪花椀(185)、輪花椀(186)、水注(187)、壺(188・189)がある。140～154、156・157、160～184は平安京近郊産。159・186は貼り付け輪高台で158・159・185・186は東海産である。水注、壺類は平安京近郊産と思われる。輪花、陰刻花紋以外の一般的な椀、皿類は平安京近郊産で占められる傾向があると見ている。灰釉陶器は量的にも少なく、皿(190～192)、椀(163～198)、壺A蓋(199・200)、壺A(201)がある。

A区溝41出土土器 (図版15、図15)

土師器杯(202)、同皿(203)、緑釉陶器椀(204)がある。緑釉陶器椀は平安京近郊産である。

B区溝27出土土器 (図16)

土師器椀A(205)がある。

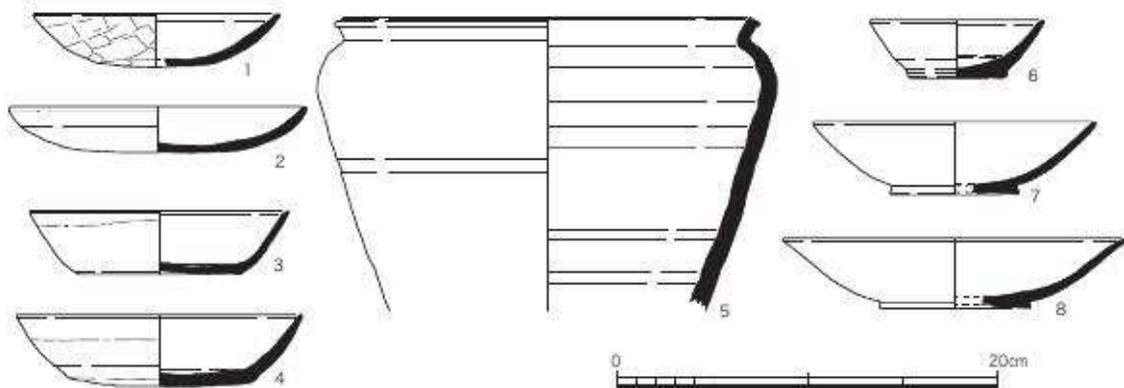


図7 A区溝38最下層出土土器実測図(1/4)

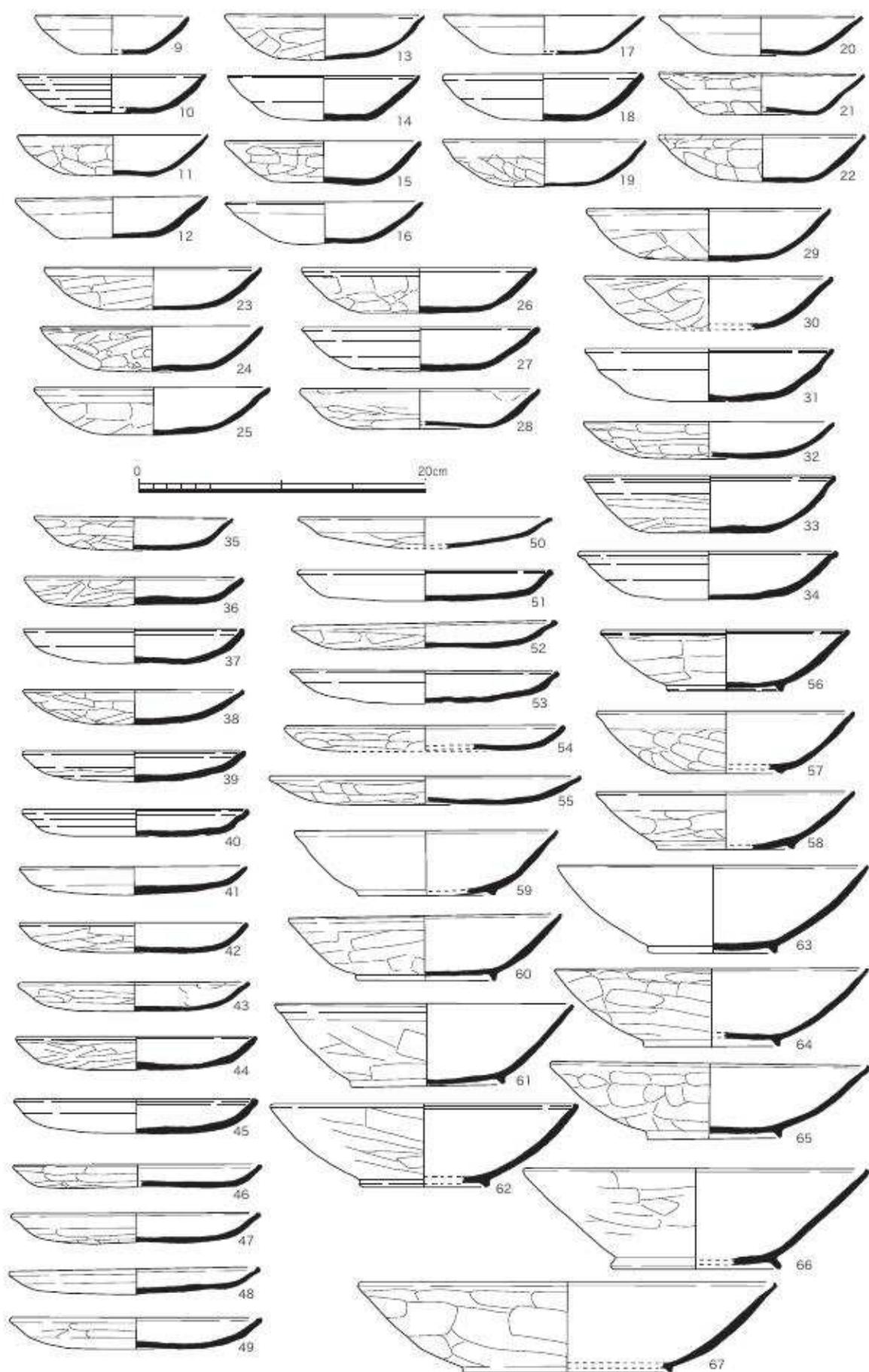


图8 A区溝38出土土器实测图(1/4)

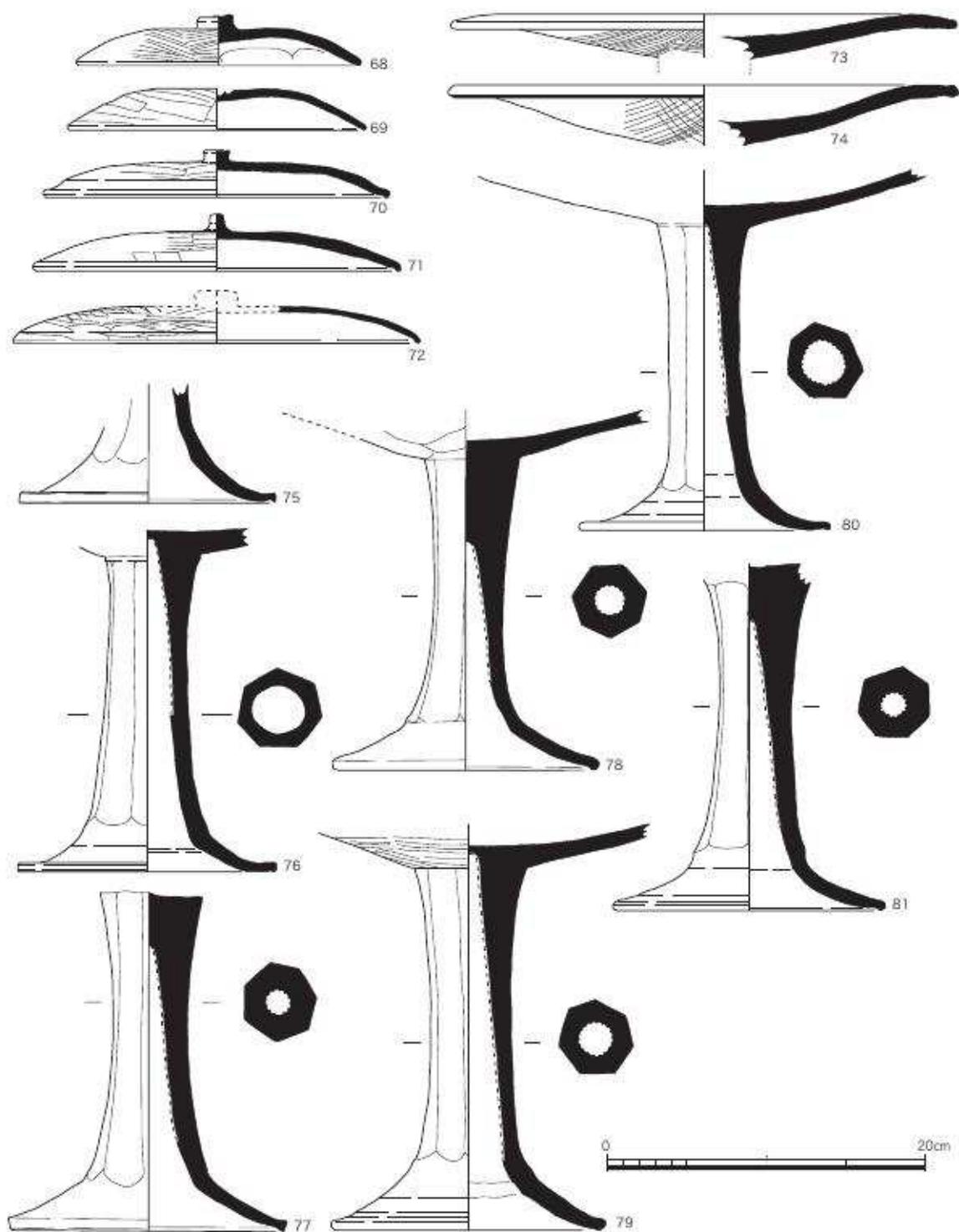


图9 A区沟38出土土器实测图(1/4)



图10 A区沟38出土土器实测图(1/4)

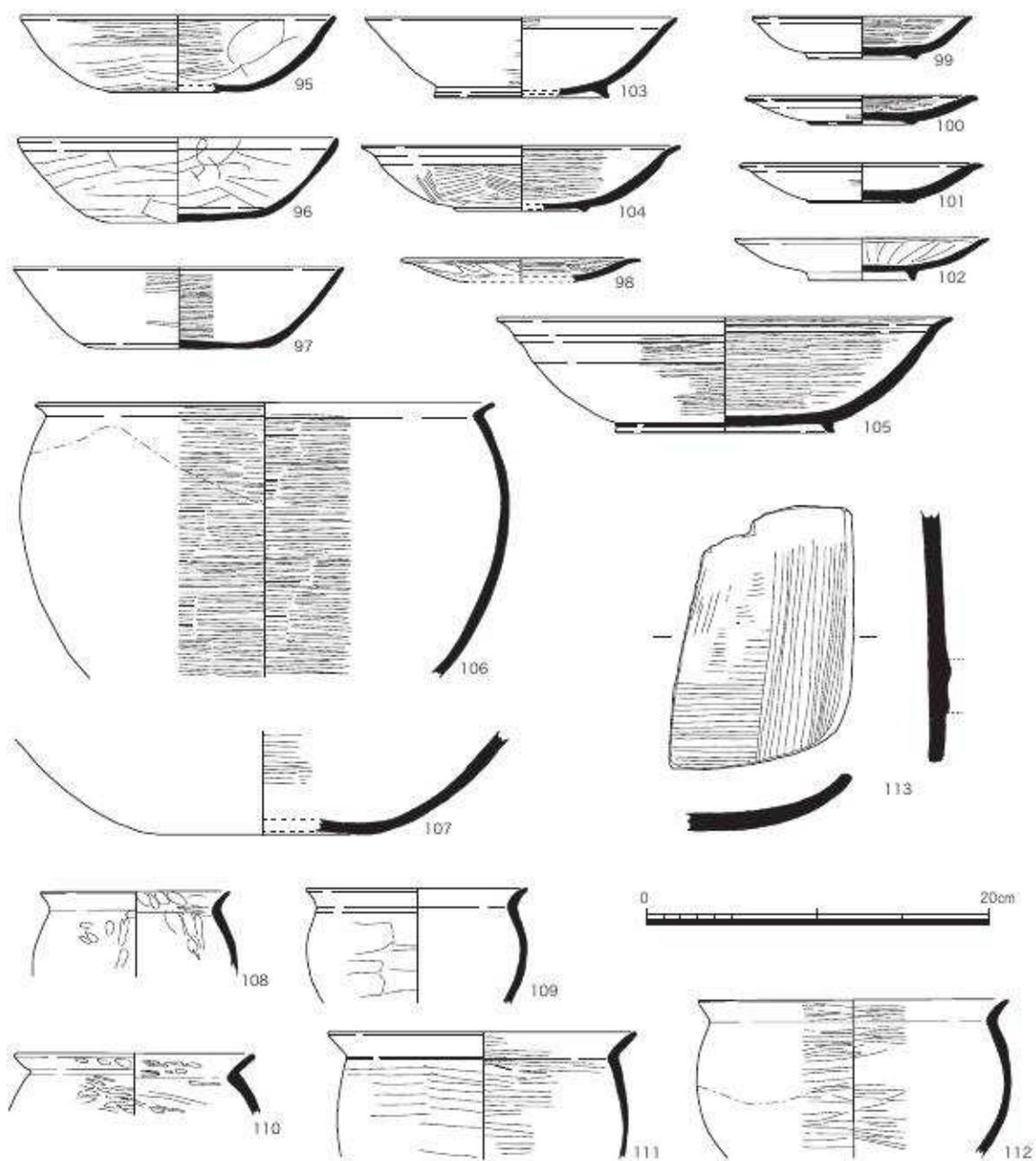


图11 A区沟38出土土器实测图(1/4)

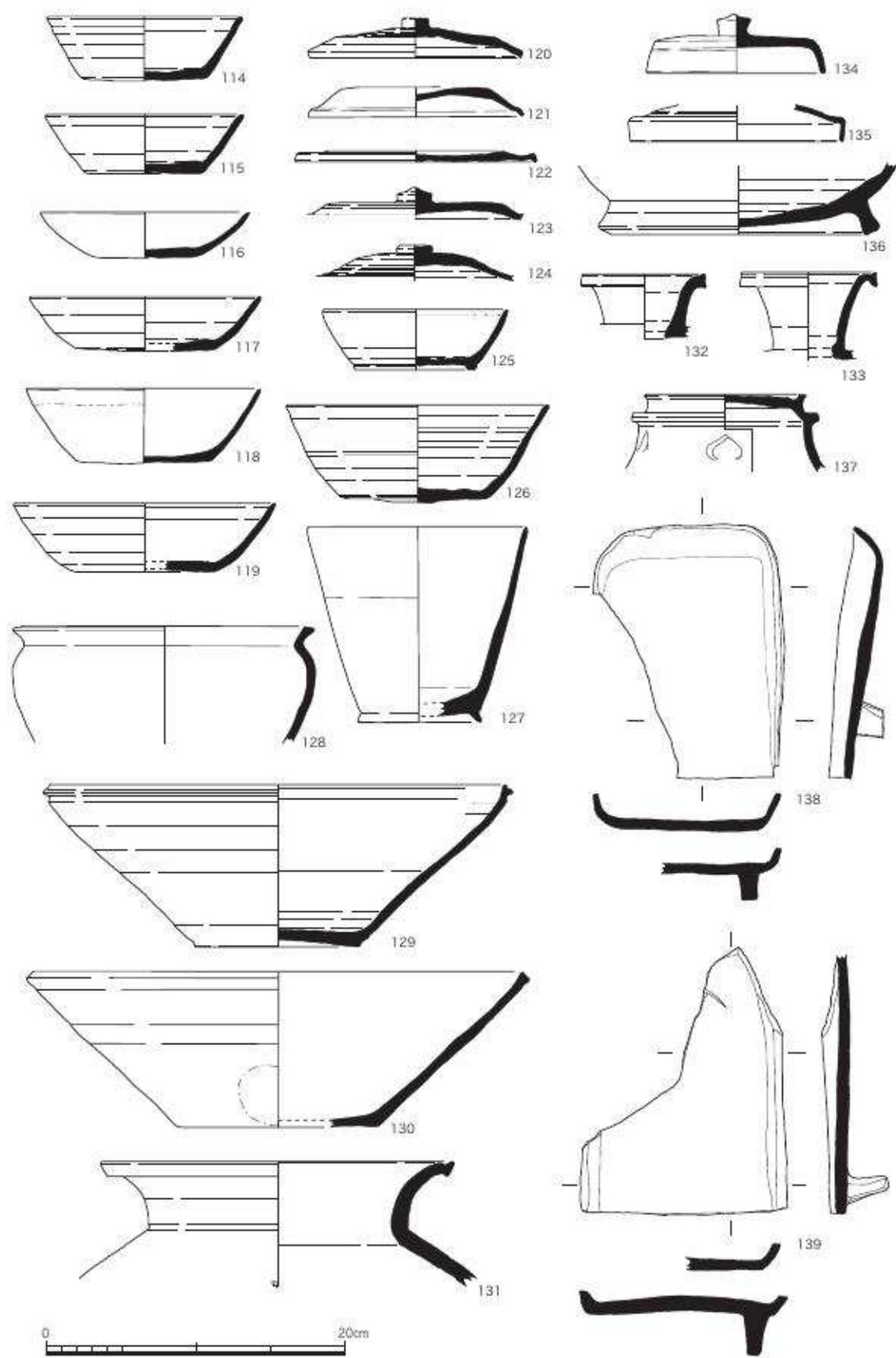


图12 A区沟38出土土器实测图(1/4)

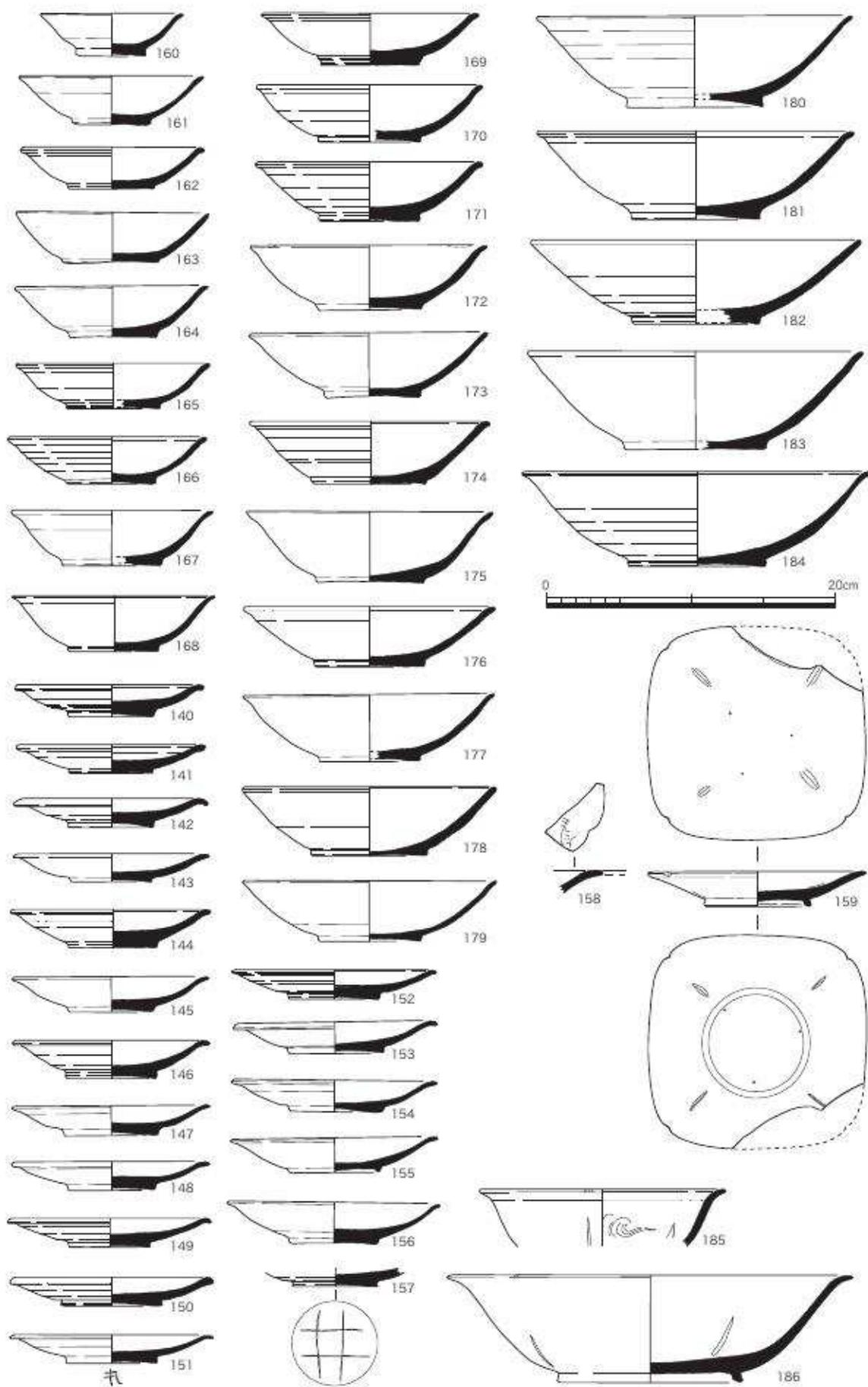


图 13 A 区溝 38 出土土器实测图 (1/4)

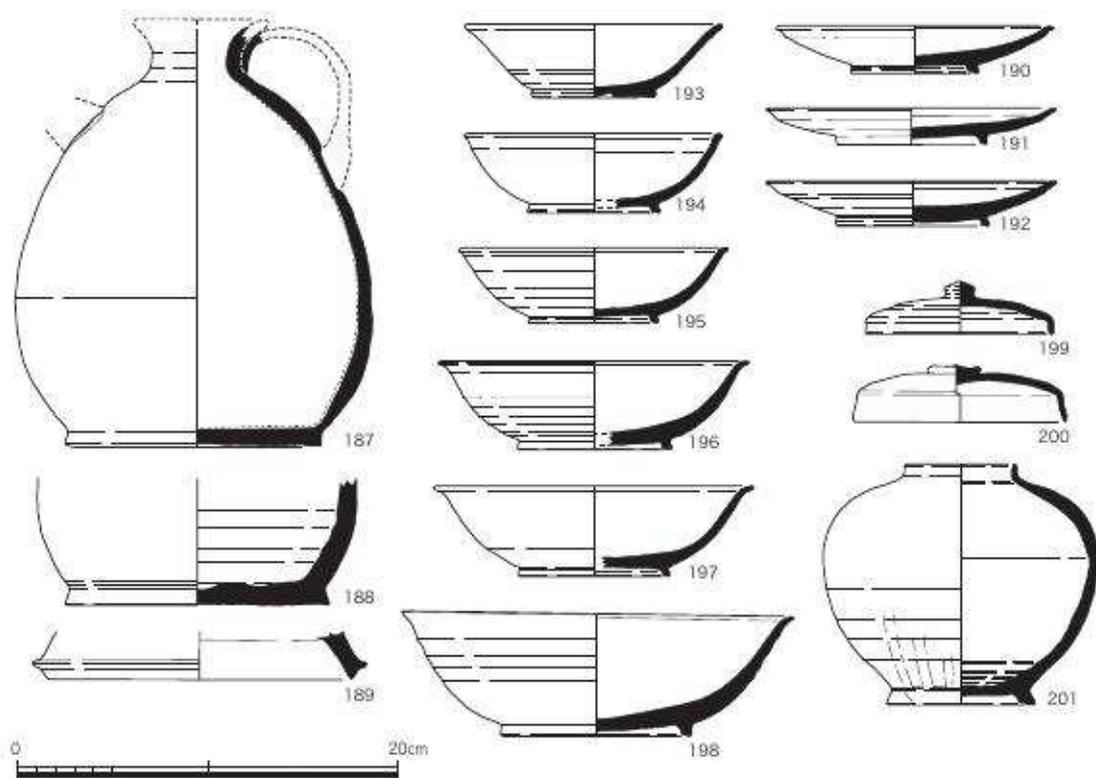


図14 A区溝38出土土器実測図(1/4)

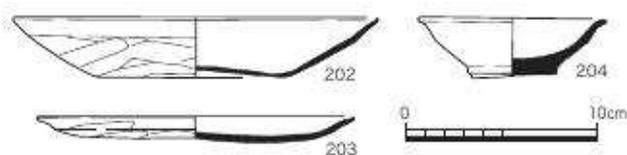


図15 A区溝41出土土器実測図(1/4)

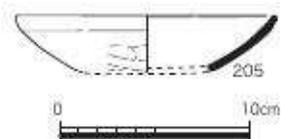


図16 B区溝27出土土器実測図(1/4)

A区土壙86出土土器 (図17)
 土師器皿N小(206・207)、同皿N大(208・209)、同皿S(210)がある。平安京VI期中くらいかと見ている。

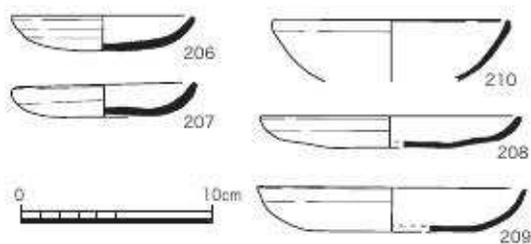


図17 A区土壙86出土土器実測図(1/4)

単弁十弁蓮華文軒丸瓦 (211～214)

小形の軒丸瓦^{註4}である。211～213は胎土がN7/灰白色、N4/灰色～N3/暗灰色で器表には炭素が吸着してN3/暗灰色を呈する。214は胎土が10YR5/1 褐灰色、器表はN3/暗灰色である。いずれも周縁部はケズリを施しナデで仕上げる。212の筒部裏面に布目が残る。211～213はA区3H区セクション東の溝38中層から、214はA区5H区の溝38上層から出土している。京都西賀茂産と見ている。

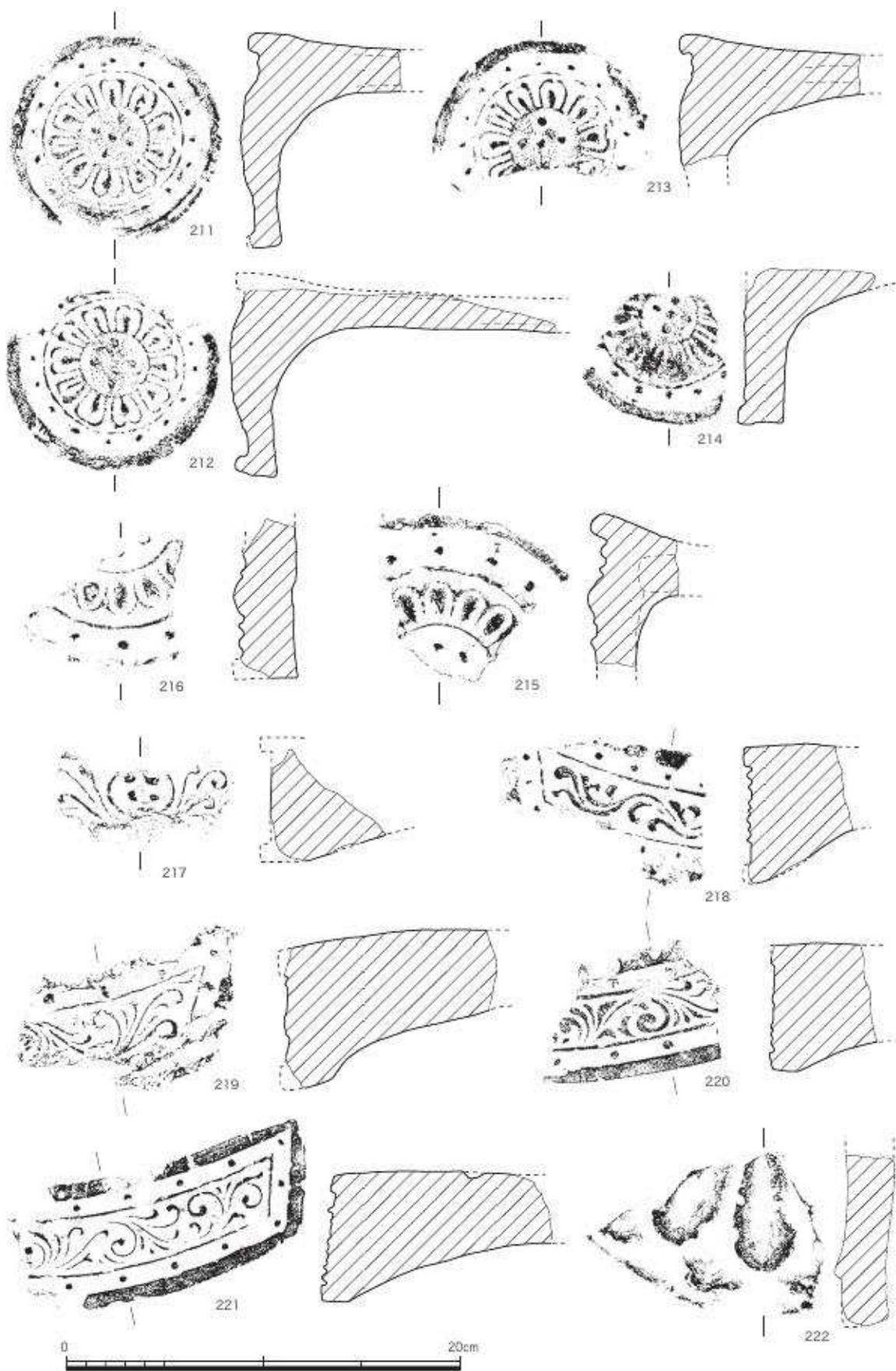


图 18 出土瓦拓影·实测图 (1/3)

単弁蓮華文軒丸瓦 (215・216)

215 の胎土は 2.5Y8/2 灰白色～10YR8/3 浅黄橙色で、器表に炭素は残っていない。216 の胎土は N8/ 灰白色で器表は N7/ 灰白色～ N4/ 灰色で炭素が吸着する。215 は A 区土壙 03 下層、216 は B 区 4A 区溝 27 出土。京都西賀茂産と見ている。

均整唐草文軒平瓦 (217～221)

217 は胎土が 2.5Y8/5 灰白色～10YR8/3 浅黄橙色、218 は 2.5Y8/1 灰白色で、両者とも被熱しているため炭素はとんでいる。産地は不明である。217 は A 区 6 H 区溝 38 上層、218 は A 区 6 H 区溝 38 中層から出土している。219 は胎土は N 7/ 灰白色で砂粒を多く含み、器表は N5/ 灰色で炭素が吸着する。A 区 4 G 区攪乱より出土した。220 は 2.5Y8/2 灰白色～10YR8/3 浅黄橙色、部分的に 5R8/3 淡橙色で被熱している。A 区土壙 17 より出土。221 は胎土は N7/ 灰白色で硬質、器表は N6/ 灰色を呈する。A 区 5 H 区溝 38 下層より出土する。218～221 は京都西賀茂産と見ている。

菊花文金箔錆瓦 (222)

胎土は N/4 灰色～ N3/ 暗灰色、器表は炭素が吸着し N3/ 暗灰色で、花卉部分に金箔を施す。聚楽第に使われていた瓦の可能性が高いと思われる。A 区土壙 03 下層より出土している。

表1 遺物概要表

時代	内容	コンテナ数	A ランク点数	B ランク箱数	C ランク箱数
平安時代	土師器、須恵器、黒色土器、灰軸陶器、白色土器、輸入陶磁器、瓦		土師器 91 点、須恵器 29 点、黒色土器 19 点、緑軸陶器 54 点、灰軸陶器 12 点、軒先瓦 11 点		
鎌倉時代	土師器、瓦器、輸入陶磁器		土師器 5 点		
桃山時代以降	土師器、国産施軸陶磁器、焼締陶器、瓦器、銭貨、瓦		金箔瓦 1 点		
合計		150 箱	222 点 (20 箱)	130 箱	0 箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、A ランクの遺物を抽出したため、出土時より 20 箱多くなっている。

V 小 結

当調査地は平安京左京二条二坊二町から大炊御門大路を含み、冷然院北西部の一部に当たっている。以前の調査でその存在が判明していた冷然院の北限溝についてすこし問題点を述べておきたいと思う。また、弥生時代の集落跡とされる二条城北遺跡については、新知見を得ることはできなかった。

条坊復元モデル 60 を平面図に入れてみるとまず大炊御門大路の南側側溝が 0.7 ~ 0.8 m ほどモデルより北へずれている事がわかる。こうしたずれは誤差の範囲内でめずらしい事ではないが、このまま冷然院北限溝である A 区溝 38 を見てみると溝の中心が築地基底部の南辺に位置しているように見える。しかし、北へずれていることを考えると北限溝の北肩と築地基底部南辺がほぼ重なるかわずかに北肩が南に位置する事がわかる。冷然院の施工者は築地の築地基底部の南辺に添って溝を掘ったものと推察できる。邸宅の敷地占有の意識が築地基底部ぎりぎりまで及んで利用していることがわかり興味深い。基底部を侵食してまで利用しているわけではないということがわかる。しかし、溝の深さが 1.1 ~ 1.2 m ということを考えてと築地の高さをプラスするとかなりの高低差と言える。

溝はⅠ期新~Ⅱ期古くらいの土器類で満たされており、この時期に埋まってしまって機能を失っている。この調査で出土した遺物の八割ほどがこの溝から出土したものである。埋土中には炭

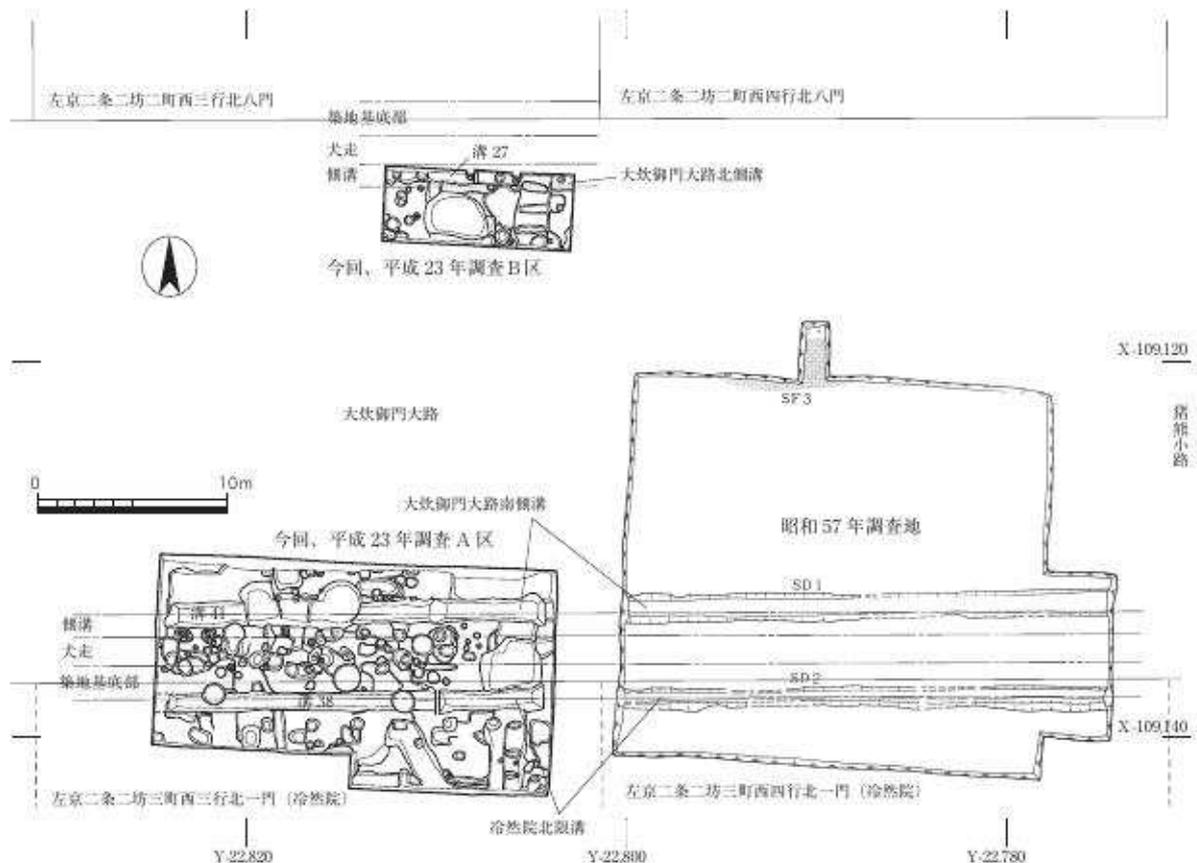


図 19 町割りと溝関係図 (1/400)

や焼土も多く含まれていて、貞観 17（875）年の火災処理をこの溝で行った可能性が高いが、それ以降この溝を利用した形跡が無い。掘り直したり冷然院はこれ以降も続くので再建時に縮小された可能性と、北限に溝を作るという作業を省いたということも考えられるが、解明は今後の課題である。

註 1 「昭和 57 年度 京都市埋蔵文化財調査概要」（財）京都市埋蔵文化財研究所 1984 年、「古代の土器 1 都城の土器集成」古代の土器研究会編 1992 年

註 2 平成 6（1994）年に関西文化財調査会が調査。

註 3 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年」『研究紀要第 3 号』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1996 年。土師器の型式名称もこれに従った。

註 4 使われ方がはっきりしないのでここでは仮称しておく。

表2 掲載土器一覧表

口径・器高の単位は cm
出土情報は調査区、遺構・層名、割付地区名、月/日

番号	種類	器形	口径	器高	特徴・色調	出土情報	実測番号
1	土師器	碗	13.0	2.8	7.5YR6/6 橙色。細かい砂粒含む。	A区溝 38 最下層, 2H, 11/28	116
2	土師器	皿	15.7	2.5	7.5YR7/6 橙色。径1mmの砂粒含む。外面摩滅。	A区溝 38 最下層, 2H, 11/28	115
3	須恵器	杯 A	13.7	3.4	5Y7/1 灰白色。径1mm程度の砂粒少量含む。	A区溝 38 最下層, 5H, 11/28	127
4	須恵器	杯 A	15.0	3.9	5Y6/1 灰色。径2mm以下の砂粒少量含む。	A区溝 38 最下層, 5H, 11/28	128
5	須恵器	鉢	22.4		粘土 5Y5/1 灰色。径1mm程度の砂粒少量含む。	A区溝 38 最下層, 5H, 11/28	129
6	緑釉陶器	碗	9.2	3.1	粘土 10YR8/1 灰白色。釉 5Y8/3 淡黄色に発色。内外面ミガキ。外面下半ケズリ。全面施釉。	A区溝 38 最下層, 2H, 11/28	117
7	緑釉陶器	碗	14.8	3.9	粘土。釉とも 5Y6/4 オリーブ黄色。内外面ミガキ。蛇ノ目高台。全面施釉。東海産か。	A区溝 38 最下層, 2H, 11/28	118
8	緑釉陶器	碗	18.2	3.7	粘土 5Y7/1 灰白色。釉 5Y5/2 灰オリーブ色。全面施釉。内外面ミガキ。外面下半はケズリ。蛇ノ目高台。東海産か。	A区溝 38 最下層, 5H, 11/28	130
9	土師器	碗	10.8	2.8	7.5YR6/4 にぶい橙色。	A区溝 38 上層, 3H セク西, 11/22	55
10	土師器	碗	13.2	2.8	5YR5/8 明赤褐色。	A区溝 38 中層, 7H, 12/15	207
11	土師器	碗	13.4	3.0	5YR6/6 橙色。	A区溝 38, 2H 西部, 11/22	45
12	土師器	碗	13.5	3.0	7.5YR7/4 にぶい橙色。	A区溝 38, 4H, 11/18	14
13	土師器	碗	13.5	3.2	径1mm以下の砂粒混じる。7.5YR7/6 橙色。	A区溝 38 下層, 3H セク東, 11/25	101
14	土師器	碗	13.8	3.1	10YR7/4 にぶい黄橙色。	A区溝 38, 2H 西部, 11/22	47
15	土師器	碗	13.9	3.0	7.5YR8/4 浅黄橙色。	A区溝 38 上層, 3H セク西, 11/22	70
16	土師器	碗	14.0	3.2	7.5YR7/6 橙色。外面ケズリ。	A区溝 38 中層, 3H セク西, 11/22	61
17	土師器	碗	14.1	2.8	径1～2mmの砂粒混じる。10YR8/4 浅黄橙色。ケズリ不明瞭。	A区溝 38, 3H セク西, 11/21	37
18	土師器	碗	14.1	3.4	10YR8/4 浅黄橙色。器表は残り悪い。径0.5～1.5mmの砂粒少し含む。	A区溝 38 中層, 5H, 12/13	182
19	土師器	碗	14.2	3.3	7.5YR7/4 にぶい橙色。	A区溝 38, 2H 西部, 11/22	46
20	土師器	碗	14.3	2.8	7.5YR7/6 橙色。外面下半はオサエ。	A区溝 38, 3H セク西, 11/21	38
21	土師器	碗	14.4	3.0	7.5YR6/6 橙色。口縁端部一部に黒付着。	A区溝 38 上層, 3H セク西, 11/22	56
22	土師器	碗	14.5	3.4	7.5YR8/6 浅黄橙色。	A区溝 38 中層, 3H セク東, 11/22	66
23	土師器	杯	15.2	3.0	径1mmの砂粒混じる。7.5YR7/6 橙色。	A区溝 38, 3H セク西, 11/21	40
24	土師器	杯	15.6	3.2	径0.5～1mmの砂粒混じる。7.5YR7/6 橙色。	A区溝 38, 3H セク西, 11/21	39
25	土師器	杯	16.5	3.4	径1mm程度の砂粒混じる。7.5YR7/6 橙色。	A区溝 38 中層, 3H セク東, 11/25	96
26	土師器	杯	16.5	3.2	7.5YR6/6 橙色。径1mm程度の砂粒含む。	A区溝 38 中層, 5H, 11/28	121
27	土師器	杯	16.6	3.1	7.5YR7/6 橙色～10YR8/3 浅黄橙色。	A区溝 38 中層, 5H, 12/13	183
28	土師器	杯	16.9	2.9	7.5YR6/4 にぶい橙色。	A区溝 38, 4H, 11/18	13
29	土師器	杯	17.1	3.8	7.5YR7/6 橙色。	A区溝 38 中層, 3H セク西, 11/22	62
30	土師器	杯	17.4	3.8	7.5YR7/4 にぶい橙色。	A区溝 38, 2H 西部, 11/22	48
31	土師器	杯	17.4	3.8	7.5YR6/6 橙色。径1mm以下の砂粒わずかに含む。	A区溝 38 中層, 6H, 11/28	132
32	土師器	杯	17.6	2.7	7.5YR6/4 にぶい橙色。	A区溝 38, 2H 西部, 11/22	49
33	土師器	杯	17.6	4.1	径1.5mm程度の砂粒少量含む。7.5YR7/4 にぶい橙色～同 8/4 浅黄橙色。	A区溝 38 中層, 7H, 12/15	208
34	土師器	杯	18.2	3.4	7.5YR6/6 橙色。細かい砂粒含む。	A区溝 38 中層, 6H, 11/28	131
35	土師器	皿	13.9	2.4	5YR7/6 橙色。	A区溝 38 上層, 3H セク西, 11/22	57
36	土師器	皿	15.3	2.1	7.5YR6/6 橙色。	A区溝 38, 4H, 11/18	12
37	土師器	皿	15.4	2.5	10YR7/4 にぶい黄橙色。	A区溝 38 セク第3層, 3H, 12/05	144
38	土師器	皿	15.5	2.5	7.5YR8/3 浅黄橙色。	A区溝 38, 4H, 11/18	19
39	土師器	皿	15.6	2.3	7.5YR7/6 橙色。径1mm以下の砂粒多く含む。	A区溝 38 下層, 4H, 12/13	206
40	土師器	皿	15.9	2.0	10YR7/4 にぶい黄橙色。1mm以下の砂粒含む。	A区溝 38 中層, 5H, 12/13	184
41	土師器	皿	16.0	2.1	10YR8/3 浅黄橙色。	A区溝 38 中層, 2H, 11/25	94
42	土師器	皿	16.0	2.2	7.5YR6/8 橙色。径1mm以下の砂粒を含む。	A区溝 38 中層, 4H, 12/12	159
43	土師器	皿	16.3	2.1	7.5YR7/4 にぶい橙色。	A区溝 38, 4H, 11/18	11
44	土師器	皿	16.9	2.4	粘土 7.5YR7/6 橙色。径1mm程度の砂粒少量含む。	A区溝 38 中層, 6H, 11/28	133
45	土師器	皿	17.1	2.5	10YR7/3 にぶい黄橙色。	A区溝 38 中層, 5H, 11/28	120
46	土師器	皿	17.4	1.7	7.5YR7/4 にぶい橙色。	A区溝 38 中層, 2H, 11/22	51
47	土師器	皿	17.5	2.2	径1～3mmの砂粒混じる。7.5YR7/6 橙色。	A区溝 38, 3H セク西, 11/21	43
48	土師器	皿	17.6	1.9	径1mmの砂粒混じる。10Y8/2 灰白色。	A区溝 38 中層, 2H, 11/24	81
49	土師器	皿	17.7	2.2	7.5YR7/6 橙色。粘土やや粗い。	A区溝 38, 2H 西部, 11/22	50
50	土師器	皿	17.8	2.3	粘土は 7.5YR7/6 橙色。	A区溝 38, 4H, 11/17	2
51	土師器	皿	17.9	2.2	7.5YR7/6 橙色。	A区溝 38 中層, 4H, 12/12	160
52	土師器	皿	18.6	2.1	10YR7/4 にぶい黄橙色。	A区溝 38, 3H セク東, 11/21	29
53	土師器	皿	18.8	2.4	7.5YR8/4 浅黄橙色。	A区溝 38 中層, 4H, 12/12	161
54	土師器	皿	19.7	1.9	5YR6/6 橙色。	A区溝 38, 4H, 11/18	7
55	土師器	皿	21.9	2.1	7.5YR6/4 にぶい橙色。粘土に径1mm程度の砂粒混じる。	A区溝 38 中層, 3H セク西, 11/22	60
56	土師器	杯 B	17.4	4.4	径1～5mmの砂粒少量混。7.5YR7/6 橙色。外面ケズリ。	A区溝 38 中層, 6H, 11/25	108
57	土師器	杯 B	18.1	4.4	粘土は 7.5YR7/4 にぶい橙色。	A区溝 38, 4H, 11/17	1
58	土師器	杯 B	18.1	4.1	10YR7/4 にぶい黄橙色。高台張り付け。	A区溝 38, 3H セク西, 11/21	42
59	土師器	杯 B	18.4	4.6	10YR8/3 浅黄橙色。高台張り付け。	A区溝 38, 3H セク西, 11/21	41

番号	種類	器形	口径	器高	特徴・色調	出土情報	実測番号
60	土師器	杯-B	19.1	4.7	75YR7/4 にぶい橙色、外面ケズリ。高台貼付け。	A区溝38上層、3Hセク西、11/22	58
61	土師器	杯-B	20.9	5.9	胎土に径1～2mm程度の砂粒含む。75YR6/4 にぶい橙色。	A区溝38中層、3Hセク東、11/24	83
62	土師器	杯-B	21.6	5.9	10YR7/4 にぶい黄褐色。径1mm程度の砂粒少量含む。	A区溝38セク第3層、3H、12/05	145
63	土師器	杯-B	21.7	6.2	10YR7/4 にぶい黄褐色。外面ミガキか？。貼付け高台。	A区溝38中層、3Hセク西、11/22	73
64	土師器	杯-B	22.0	5.5	径1mm程度の砂粒混じる。5YR6/6 褐色。外面ケズリ。	A区溝38中層、3Hセク東、11/24	85
65	土師器	杯-B	22.4	5.5	5YR5/6 明赤褐色。径1mm程度の砂粒混入。	A区溝38、4H、11/18	18
66	土師器	杯-B	24.2	7.1	75YR8/4 浅黄褐色。内面はナデ、外面はケズリ。	A区溝38、4H、11/18	16
67	土師器	杯-B	29.3	6.4	5YR6/6 褐色。外面はケズリ。貼り付け高台。	A区溝38中層、3Hセク東、11/24	84
68	土師器	杯-B蓋	18.0	3.2	5YR5/6 明赤褐色。径1mm以下の砂粒少量含む。外面はミガキ。内面にら旋状の暗文。	A区溝38上層、5H、12/12	166
69	土師器	杯-B蓋	18.8		75YR5/4 にぶい褐色。外面はケズリ。掘みは欠失。	A区溝38中層、5H、12/13	181
70	土師器	杯-B蓋	21.8	3.0	10YR6/4 にぶい黄褐色。外面ケズリ。内面ナデ。	A区溝38中層、5H、12/13	180
71	土師器	杯-B蓋	23.2	3.6	10YR6/4 にぶい黄褐色。外面ケズリ。内面ナデ。	A区溝38中層、5H、12/13	179
72	土師器	杯-B蓋	25.7		75YR7/6 褐色。	A区溝38上層、3Hセク西、11/22	59
73	土師器	高杯杯部	31.9		75YR7/6 褐色。径1mm以下の砂粒多く含む。外面はミガキ。内面はナデ（器表状況不良）。	A区溝38下層、4H、12/13	204
74	土師器	高杯杯部	32.2		75YR6/6 褐色。1mm以下の砂粒わずかに含む。外面はミガキ。内面はナデ（器表状況不良）。	A区溝38下層、4H、12/13	205
75	土師器	高杯			75YR7/4 にぶい褐色。軸部外面は削って面を作り出す。底径16.2cm。	A区溝38、4H、11/18	15
76	土師器	高杯			底径16.3cm。径2mm以下の砂粒を含み10YR8/3 浅黄褐色～75YR7/6 褐色を呈す。面取は7面。	A区溝38上層、4H、12/12	158
77	土師器	高杯			径1～3mmの砂粒混じる。75YR7/6 褐色。軸部は削って面を作り出す。断面は7角形。底径は17.6cm。	A区溝38上層、3Hセク東、11/22	65
78	土師器	高杯			底径16.9cm。75YR7/4 にぶい褐色。軸部は削って面を作り出す。断面は7角形。	A区溝38中層、2H、11/24	80
79	土師器	高杯			75YR7/6 褐色。径1～2mmの砂粒含む。面取は7面。底径17.3cm。	A区溝38、4H、11/18	20
80	土師器	高杯			底径15.8cm。10YR8/2 灰白色～5YR7/6 褐色。径1～2mmの砂粒含む。軸部に7面の面取をする。	A区溝38中層、5H、12/13	178
81	土師器	高杯			底径17.2cm。色調は軸部で10YR6/4 にぶい黄褐色、胴部で25Y7/3 浅黄色。軸部面取は7面。	A区溝38中層、6H、11/25	109
82	土師器	甕	11.1	9.0	内面上半ミガキ、外面下半ケズリ。胎土10YR7/3 にぶい黄褐色。	A区溝38中層、3Hセク東、11/25	97
83	土師器	甕	14.1		75YR6/6 褐色。1mm以下の砂粒含む。内面はナデ、外面はハケメ後ナデ、下半に集付着。	A区溝38中層、5H、12/13	185
84	土師器	甕	17.0		10YR6/3 にぶい黄褐色。外面はハケメ後ナデ。内面はケズリ後ナデ、口縁内外はナデで仕上げる。	A区溝38上層、5H、12/12	169
85	土師器	甕	18.5		胎土は75YR7/6 褐色。径1～3mmの砂粒含む。内面はなで、口縁内周は横方向のハケメ。外面はランダムなハケメを施す。	A区溝38中層、6H、11/28	139
86	土師器	甕	20.7		25Y7/2 灰黄色。径1mm程度の砂粒多く含む。外面はハケメ。口縁内外周はナデ、内面はオサエ。外面には集付着。	A区溝38中層、5H、12/13	186
87	土師器	甕	21.8		10YR8/3 浅黄褐色。口縁内周はナデ。内面はランダムにハケメ。外面は縦方向のハケメの後、斜め方向のケズリ。外面に集付着。	A区溝38セク整形、3Hセク東、11/28	119
88	土師器	甕	23.8		10YR8/4 浅黄褐色。全体にハケメ調整後ナデで仕上げる。	A区溝38中層、4H、12/12	162
89	土師器	甕	24.0		25Y7/3 浅黄色。径1～3mmの砂粒含む。外面はハケメ後ナデ。内面もナデで仕上げる。外面は集付着。	A区溝38上層、4H、12/12	157
90	土師器	甕	26.0		胎土に径1mm程度の砂粒混入。10YR7/4 にぶい黄褐色を呈す。	A区溝38、4H、11/17	3
91	土師器	甕	26.0		口縁内面に横方向の粗いハケ、外面も粗いハケメが残る。75YR7/4 にぶい褐色。	A区溝38、3Hセク東、11/21	30
92	土師器	甕	26.2		口縁内面に横方向の粗いハケ、外面も粗いハケメが残る。75YR7/3 にぶい褐色。	A区溝38、4H、11/18	8
93	土師器	甕	28.5		口縁内面に横方向の粗いハケ、外面も粗いハケメが残る。75YR8/4 浅黄褐色。	A区溝38、4H、11/18	17
94	土師器	甕	30.0		外面縦方向のナデで集付着。内面ナデ、口縁内周横方向のナデ。径1.5mm程度の砂粒混。10YR7/3 にぶい黄褐色。	A区溝38中層、6H、11/25	107
95	黒色土器	杯	18.4	4.5	内面に炭素吸着。径1mm以下の砂粒わずかに含む。10YR6/3 にぶい黄褐色。	A区溝38中層、7H、12/15	210
96	黒色土器	杯	18.8	5.0	内面に炭素吸着し黒化。胎土は10YR6/3 にぶい黄褐色。外面ケズリ、内面はミガキ、暗文あり。	A区溝38中層、7H、12/15	209
97	黒色土器	杯	19.3	4.8	内面に炭素吸着。胎土は25Y6/3 にぶい黄色。内外面ミガキ。	A区溝38中層、6H、11/28	137
98	黒色土器	皿	14.1	1.5	内外面ミガキ。10YR7/4 にぶい黄褐色。	A区溝38中層、2H、11/24	82
99	黒色土器	皿	12.9	2.5	径1～2mmの砂粒少量混じる。25Y7/3 浅黄色。内面にミガキ、炭素吸着。	A区溝38中層、5H、12/13	187
100	黒色土器	皿	13.6	1.7	内面炭素吸着。内外面ミガキ。25Y8/3 浅黄色。径0.5～2mmの砂粒含む。	A区溝38中層、5H、12/13	188
101	黒色土器	皿	14.3	2.3	内面に炭素吸着。径1mm以下の砂粒わずかに含む。10YR7/4 にぶい黄褐色。器表の残存悪い。内外面ミガキか。	A区溝38中層、5H、11/28	126
102	黒色土器	皿	14.9	2.5	75YR7/4 にぶい褐色。内面～口縁外面ミガキ。高台は貼り付け。	A区溝38中層、3Hセク東、11/24	86
103	黒色土器	碗	18.2	4.8	内面に炭素吸着。胎土は75YR6/4 にぶい褐色。器表残り悪く内外面ミガキか。	A区溝38中層、6H、11/28	138
104	黒色土器	碗	18.7	3.9	10YR7/4 にぶい黄褐色。内面は炭素吸着。外面も下半部まで黒化。内外面ミガキ。	A区溝38中層、4H、12/13	171

番号	種類	器形	口径	器高	特徴・色調	出土情報	実測番号
105	黒色土器	鉢	26.7	6.8	内外面ミガキ、内面は炭素吸着。胎土10YR8/2灰白色～5YR6/6褐色、径1mmの砂粒含む。	A区溝38中層、5H、12/13	189
106	黒色土器	鉢	26.9		10YR6/4にぶい黄褐色。内外面ミガキ。内面～口縁外周炭素吸着して黒色。	A区溝38中層、3Hセク東、11/24	87
107	黒色土器	鉢			内面に炭素吸着。径1mm以下の砂粒わずかに含む。2.5Y6/3にぶい黄色。	A区溝38中層、4H、12/13	172
108	黒色土器	甕	11.1		内外面ミガキ。N3/暗灰色。	A区溝38、4H、11/18	9
109	黒色土器	甕	12.8		径1mm以下の砂粒少量混入。10YR7/4にぶい黄褐色。内面炭素吸着。外面粗いケズリ。	A区溝38下層、3Hセク東、11/25	103
110	黒色土器	甕	14.1		内外面ミガキ。7.5Y3/1オリーブ黒色。	A区溝38、4H、11/18	10
111	黒色土器	甕	18.0		内外面とも黒色化する。内面から外部中位までミガキ、外部下半はケズリ。	A区溝38中層、5H、12/13	190
112	黒色土器	甕	18.1		7.5YR7/4にぶい褐色。内外面ミガキ。	A区溝38、4H、11/18	22
113	黒色土器	瓶字罎			内外面、胎土内部まで黒化する。内外面とも丁寧に磨く。	A区溝38中層、5H、12/13	191
114	須恵器	杯A	13.2	4.4	5Y7/1灰白色、径1～3mm程度の砂粒少量含む。外面一部に集積着。	A区溝38中層、5H、12/13	194
115	須恵器	杯A	13.3	4.0	2.5Y8/3淡黄色(口縁部)～2.5Y5/1黄灰色(体部)、径0.5～3mm程度の砂粒少量含む。	A区溝38中層、5H、12/13	195
116	須恵器	杯A	14.0	3.1	焼成やや甘い。径1～1.5mmの砂粒含む。2.5Y7/2灰黄色。	A区溝38中層、2H、11/22	54
117	須恵器	杯A	15.5	3.7	2.5Y7/1灰白色。底部外面は未調整。径1mmの砂粒を少量含む。	A区溝38中層、5H、11/28	122
118	須恵器	杯A	15.8	5.1	2.5Y7/1灰白色。底部外面は未調整。	A区溝38中層、2H、11/25	95
119	須恵器	杯A	17.6	4.7	N7/灰白色。焼成はやや甘い。	A区溝38中層、4H、12/13	175
120	須恵器	杯B蓋	14.4	2.7	N5/灰色。径1mm程度の砂粒少し含む。	A区溝38中層、5H、12/13	192
121	須恵器	杯B蓋	14.5	2.1	2.5Y6/1黄灰色。握みはつかない。	A区溝38中層、3Hセク東、11/22	69
122	須恵器	杯B蓋	16.2	0.8	N3/暗灰色。径1mm程度の砂粒少量含む。握みはつかない。	A区溝38中層、5H、11/28	123
123	須恵器	杯B蓋			N6/灰色。観に転用され内面は平滑。	A区溝38上層、5H、11/25	106
124	須恵器	杯B蓋			7.5Y4/3暗オリーブ色。径2mm程度の砂粒わずかに含む。東海産か。	A区溝38中層、5H、12/13	193
125	須恵器	杯B	12.4	4.1	N4/灰色。断面5YR4/3にぶい赤褐色。径1mm以下の砂粒わずかに含む。	A区溝38中層、5H、12/13	196
126	須恵器	杯B	17.7	6.7	5Y4/1灰色。径1mm程度の砂粒少量含む。	A区溝38上層、4H、12/12	147
127	須恵器	杯B鉢?	14.8	13.3	胎土2.5Y6/1黄灰色。	A区溝38中層、3Hセク東、11/25	98
128	須恵器	鉢	20.3		焼成やや甘い。10YR8/2灰白色。	A区溝38、4H、11/17	4
129	須恵器	鉢	31.5	11.0	胎土に径1mm程度の砂粒混入。色調は5Y5/1灰白色。焼成やや甘い。	A区溝38中層、6H、11/25	111
130	須恵器	鉢	33.7	10.6	焼成やや甘い。2.5Y7/2灰黄色。	A区溝38中層、2H、11/22	53
131	須恵器	甕	23.8		7.5Y4/1灰色。径1～3mmの砂粒少量含む。外面はタタキ後ナデ、内面もナデて仕上げる。	A区溝38上層、4H、12/12	148
132	須恵器	壺口	8.4		N3/暗灰色。径1～4mm程度の砂粒わずかに含む。	A区溝38中層、4H、12/13	176
133	須恵器	壺口	9.2		N4/灰色。径0.5mm程度の砂粒少量含む。	A区溝38中層、4H、12/12	165
134	須恵器	壺蓋	12.1	4.0	胎土に径1mm程度の砂粒混入。色調は7.5Y5/1灰色。	A区溝38、3Hセク東、11/21	28
135	須恵器	壺蓋	14.6		7.5Y6/1灰色。細かい砂粒含む。	A区溝38セク第3層、3H、12/05	146
136	須恵器	壺底部			底部径18.9cm。短頸壺の底部。5Y8/1灰白色。径1～5mm程度の砂粒わずかに含む。	A区溝38中層、4H、12/13	177
137	須恵器	内面観	10.9		N3/暗灰色。脚部の6方向に透かし。除部は使用痕で平滑。周縁部に集積着。内面に降下軸。	A区溝38中層、6H、11/25	110
138	須恵器	瓶字罎	幅12.9	長17.2	細かい砂粒多く含む。胎土N6/灰色。表面に自然軸かかる。観面除部は使用痕で平滑。溝部分に墨の痕跡残る。	A区溝38中層、7H、12/15	212
139	須恵器	瓶字罎			幅14.0cm。2.5Y5/1黄灰色。径1mm程度の砂粒少し含む。除部中央は使用しているため平滑。除部は墨が残る。表面は降下軸がかかる。	A区溝38中層、5H、12/13	197
140	緑釉陶器	甕	13.1	2.3	胎土2.5Y8/2灰白色。釉5Y6/2灰オリーブ色に発色。全面施釉。内外面ミガキ、外面下半ケズリ。	A区溝38中層、5H、12/13	201
141	緑釉陶器	甕	13.2	2.0	胎土5Y8/1灰白色。径1.5mmの砂粒少量混入。釉5Y7/4浅黄色に発色。内外面ミガキ、外面下半ケズリ。全面施釉。	A区溝38上層、5H、11/25	105
142	緑釉陶器	甕	13.5	2.1	胎土10YR8/3浅黄褐色。釉10YR5/4にぶい黄褐色に発色。内外面ミガキ、外面下半はケズリ。全面施釉。高台は削り出し。	A区溝38中層、6H、11/28	135
143	緑釉陶器	甕	13.6	2.0	内外面ミガキ。胎土は2.5Y8/2灰白色。釉2.5Y7/6明黄褐色。高台は削り出し。全面施釉。	A区溝38、3Hセク東、11/21	27
144	緑釉陶器	甕	13.7	2.7	胎土2.5Y8/2灰白色。釉は5Y7/4浅黄色に発色。全面施釉。内外面ミガキ、外面下半はケズリ。	A区溝38中層、5H、12/13	200
145	緑釉陶器	甕	13.7	2.5	内外面ミガキ。胎土は2.5Y8/2灰白色。釉5Y7/3浅黄色。高台は削り出し。全面施釉。	A区溝38中層、3Hセク東、11/22	68
146	緑釉陶器	甕	13.7	2.7	胎土7.5YR8/4浅黄褐色。釉7.5Y6/3オリーブ黄色に発色。内外面ミガキ、外面下半ケズリ。全面施釉。	A区溝38中層、6H、11/25	112
147	緑釉陶器	甕	13.8	2.2	内外面ミガキ。胎土は2.5Y8/2灰白色。釉5Y7/6黄色。高台は削り出し。全面施釉。	A区溝38、3Hセク西、11/21	31
148	緑釉陶器	甕	13.8	2.1	内外面ミガキ。胎土は10YR8/2灰白色。釉2.5Y7/4浅黄色。高台は削り出し。全面施釉。	A区溝38上層、3Hセク西、11/22	71
149	緑釉陶器	甕	14.1	2.0	胎土10YR8/3浅黄褐色。釉7.5Y6/3オリーブ黄色に発色。内外面ミガキ、外面下半はケズリ。全面施釉。高台は削り出し。	A区溝38中層、6H、11/28	134

番号	種類	器形	口径	器高	特徴・色調	出土情報	実測番号
150	緑釉陶器	皿	14.1	2.0	胎土は25Y8/2灰白色、釉5Y7/3浅黄色に発色。内外面ミガキ、外面下半はケズリ。全面施釉。高台は削り出し。	A区溝38上層、4H、12/12	152
151	緑釉陶器	皿	14.1	2.0	内外面ミガキ、胎土は5Y5/1灰色、釉7.5Y5/3灰オリーブ色。高台は削り出し。高台前面にへら記号あり。全面施釉。	A区溝38上層、3Hセク西、11/22	72
152	緑釉陶器	皿	14.2	2.1	胎土は25Y8/3淡黄色、径1mm程度の砂粒少量含む。釉5Y7/4浅黄色に発色。全面施釉。内外面ミガキ、外面下半ケズリ。	A区溝38中層、5H、11/28	125
153	緑釉陶器	皿	14.2	2.3	内外面ミガキ、胎土は25Y8/2灰白色、釉25Y7/4浅黄色。高台は削り出し。全面施釉。	A区溝38、3Hセク西、11/21	32
154	緑釉陶器	皿	14.3	2.3	胎土10YR8/3浅黄褐色、釉5Y7/4に発色。内外面ミガキ。全面施釉。高台は削り出し。	A区溝38中層、3Hセク東、11/24	88
155	緑釉陶器	皿	14.4	2.5	内外面ミガキ、胎土は10YR8/2灰白色、釉10YR8/4浅黄色。高台は貼り付け。全面施釉。	A区溝38、3Hセク西、11/21	33
156	緑釉陶器	皿	14.8	3.1	内外面ミガキ、胎土は25Y8/2灰白色、釉7.5Y7/3浅黄色。高台は削り出し。全面施釉。	A区溝38中層、3Hセク西、11/22	63
157	緑釉陶器	皿			高台部のみ残存。内面ミガキ、外面ケズリ。胎土10YR8/3浅黄褐色。釉は5Y7/4浅黄色。底部外面にへら記号。記号は施釉してからのものである。全面施釉。	A区溝38上層、4H、12/12	155
158	緑釉陶器	輪花彫刻角皿			胎土は7.5Y7/2灰白色、釉は7.5Y6/3オリーブ黄色に発色。釉は厚い。東海産。	A区溝38上層、4H、12/12	153
159	緑釉陶器	輪花角皿	15.3	2.5	隅丸の角形に作り出し角四隅を切り欠いて輪花とする。高台は貼り付けの輪高台。高台内以外内外面ミガキ。胎土は5Y7/1灰白色、釉は7.5Y7/1灰白色～10Y7/2灰白色を呈する。内面見込み部と高台内に三叉トチンの痕跡が残る。	A区溝38中層、3Hセク東、11/24	0
160	緑釉陶器	碗	9.9	3.0	内外面ミガキ。胎土は5Y8/1灰白色、釉5Y7/4浅黄色。高台は削り出し。底部外面に糸切り痕。全面施釉。	A区溝38、3Hセク西、11/21	35
161	緑釉陶器	碗	12.8	3.5	内外面ミガキ。全面施釉。高台は削り出し。胎土10YR8/2灰白色、釉7.5Y7/3浅黄色に発色。	A区溝38中層、3Hセク東、11/25	99
162	緑釉陶器	碗	12.8	3.0	胎土25Y8/2灰白色、釉5Y6/4オリーブ黄色に発色。全面施釉。内外面ミガキ、外面下半ケズリ。	A区溝38上層、5H、11/25	104
163	緑釉陶器	碗	13.4	3.7	内外面ミガキ。胎土は10YR8/3浅黄褐色、釉5Y7/4浅黄色。高台は削り出し。底部外面に糸切り痕。全面施釉。	A区溝38、3Hセク西、11/21	36
164	緑釉陶器	碗	13.5	3.7	内外面ミガキ。胎土は25Y8/1灰白色、釉5Y7/4浅黄色。高台は削り出し。全面施釉。	A区溝38中層、3Hセク東、11/22	67
165	緑釉陶器	碗	13.5	3.2	胎土25Y8/3浅黄色、釉5Y7/4浅黄色。内外面ミガキ、外面下半ケズリ。全面施釉。高台は削り出し。	A区溝38上層、5H、12/12	168
166	緑釉陶器	碗	13.8	3.3	内外面ミガキ、外面下半ケズリ。胎土は25Y8/2灰白色、釉は25Y8/4浅黄色に発色。全面施釉。	A区溝38中層、5H、11/28	124
167	緑釉陶器	碗	14.0	3.9	内外面ミガキ。胎土は5Y8/1灰白色、釉5Y7/3浅黄色。高台は削り出し。全面施釉。	A区溝38、3Hセク西、11/21	34
168	緑釉陶器	碗	14.1	3.9	胎土25Y8/2灰白色、釉5Y8/3浅黄色に発色。全面施釉。内外面ミガキ、外面下半ケズリ。	A区溝38下層、3Hセク東、11/25	102
169	緑釉陶器	碗	15.1	3.7	胎土10YR8/1灰白色、釉7.5Y7/3浅黄色に発色。内外面ミガキ、外面下半ケズリ。全面施釉。	A区溝38中層、6H、11/25	113
170	緑釉陶器	碗	15.7	4.0	胎土5Y8/2灰白色、径1mm程度の砂粒少量混。釉5Y7/4浅黄色に発色。内外面ミガキ、外面下半ケズリ。全面施釉。	A区溝38中層、4H、12/12	163
171	緑釉陶器	碗	15.8	4.2	胎土25Y8/3淡黄色、釉7.5Y7/3浅黄色に発色。内外面ミガキ。外面下半はケズリ。全面施釉。高台は削り出し。	A区溝38下層、6H、11/28	140
172	緑釉陶器	碗	16.5	4.6	内外面ミガキ。胎土は25Y8/2灰白色、釉25Y7/4浅黄色。高台は削り出し。全面施釉。口縁の一部に釉の濃い部分あり。	A区溝38中層、3Hセク西、11/22	64
173	緑釉陶器	碗	16.6	4.7	内外面ミガキ。全面施釉。胎土は25Y8/2灰白色、釉は7.5Y6/3オリーブ黄色に発色。高台は削り出し。	A区溝38中層、3Hセク東、11/24	91
174	緑釉陶器	碗	16.7	4.6	内外面ミガキ、外面下半ケズリ。胎土は10YR8/3浅黄褐色。釉は5Y7/3浅黄色に発色。全面施釉。	A区溝38中層、4H、12/13	174
175	緑釉陶器	碗	17.1	5.1	内外面ミガキ。胎土は25Y8/2灰白色、釉25Y7/3浅黄色に発色。全面施釉。	A区溝38、4H、11/18	24
176	緑釉陶器	碗	17.5	4.2	胎土25Y8/1灰白色、釉は5Y7/4浅黄色に発色。内外面ミガキ、外面下半はケズリ。	A区溝38中層、6H、11/25	114
177	緑釉陶器	碗	17.5	4.8	内外面ミガキ。胎土5Y8/1灰白色、釉は7.5Y7/3浅黄色に発色。全面施釉。	A区溝38、4H、11/18	23
178	緑釉陶器	碗	17.6	4.8	胎土25Y8/1灰白色、釉5Y6/4オリーブ黄色に発色。全面施釉。内外面ミガキ、外面下半ケズリ。	A区溝38中層、5H、12/13	199
179	緑釉陶器	碗	17.7	4.3	胎土25Y8/3淡黄色、釉5Y7/4浅黄色。内外面ミガキ。全面施釉。高台は削り出し。	A区溝38中層、3Hセク東、11/24	89
180	緑釉陶器	碗	21.9	6.5	内外面ミガキ。全面施釉。高台は削り出し。胎土25Y8/2灰白色、釉5Y8/4浅黄色。	A区溝38中層、3Hセク東、11/24	90
181	緑釉陶器	碗	22.0	6.2	胎土10YR8/2灰白色、釉7.5Y6/3オリーブ黄色に発色。内外面ミガキ。外面下半はケズリ。全面施釉。高台は削り出し。	A区溝38中層、6H、11/28	136
182	緑釉陶器	碗	22.9	5.9	胎土5Y8/3淡黄色、釉は25Y8/4浅黄色。全面施釉。内外面ミガキ。外面下半はケズリ。高台は削り出し。	A区溝38上層、4H、12/12	151
183	緑釉陶器	碗	23.3	6.9	内外面ミガキ。胎土は5YR8/2灰白色、釉25Y6/6明黄褐色。高台は削り出し。全面施釉。	A区溝38中層、2H、11/22	52
184	緑釉陶器	碗	24.2	6.7	胎土に径1～3mm程度の砂粒含む。25YR8/1灰白色、釉は25Y7/8黄色に発色。全面施釉。内外面ミガキ。	A区溝38セク第1層、3H、12/05	143
185	緑釉陶器	彫刻輪花碗	17.1		胎土は5Y5/1灰色、釉は7.5Y5/3灰オリーブ色に発色。釉は厚い。東海産。	A区溝38上層、4H、12/12	154

番号	種類	器形	口径	器高	特徴・色調	出土情報	実測番号
186	緑釉陶器	輪花碗	28.2	7.5	内外面ミガキ、貼付けの輪高台。粘土10YR6/2灰黄褐色、釉7.5Y5/3灰オリーブ色。全面施釉。東海産。	A区溝38中層、2H、11/25	93
187	緑釉陶器	水注			最大径18.8cm。粘土2.5Y8/2灰白色、径1mm以下の砂粒わずかに含む。釉は7.5Y6/3オリーブ黄色に発色。外面は全面に施釉。釉の残存は悪い。内面は露胎。	A区溝38中層、5H、12/13	198
188	緑釉陶器	壺			底部径13.9cm。粘土5Y8/1灰白色、釉は7.5Y7/3浅黄色で外面は全面施釉。内面は露胎。底部外面には糸切り痕を残す。	A区溝38上層、5H、12/12	170
189	緑釉陶器	壺高台			粘土は2.5Y8/2灰白色、釉2.5Y7/6明黄褐色に発色。底径17.6cm。	A区溝38、4H、11/18	26
190	灰釉陶器	皿	14.6	2.6	N7/灰白色。釉は内面で7.5Y7/2灰白色に発色。外面下半ケズリ、高台は貼付けの輪高台。	A区溝38上層、4H、12/12	156
191	灰釉陶器	皿	15.3	2.0	粘土2.5Y7/1灰白色。釉は7.5Y6/2灰オリーブ色に発色。高台は貼り付け。	A区溝38上層、6H、11/24	92
192	灰釉陶器	皿	15.3	2.4	粘土10Y7/1灰白色。釉は内面に施釉されて7.5Y6/2灰オリーブ色を呈す。外面下半はケズリ。貼付けの輪高台。	A区溝38中層、4H、12/12	164
193	灰釉陶器	碗	13.5	3.9	粘土は5Y6/1灰色。釉は内面に施釉され5Y6/2灰オリーブ色に発色。底の目高台。	A区溝38セク第1層、3H、12/05	142
194	灰釉陶器	碗	13.6	4.2	粘土2.5Y7/1灰白色。釉は内面に施され7.5Y7/2灰白色に発色。高台は貼り付け。	A区溝38中層、4H、12/13	173
195	灰釉陶器	碗	14.2	4.0	粘土5Y7/1灰白色。灰釉は7.5Y7/3浅黄色。内面に施釉。外面下半ケズリ。貼付け輪高台。東海産。	A区溝38中層、5H、12/13	202
196	灰釉陶器	碗	16.4	4.7	粘土、釉ともに5Y7/1灰白色に発色。釉は内面のみ。外面下半ケズリ。貼付け輪高台。東海産。	A区溝38中層、5H、12/13	203
197	灰釉陶器	碗	16.8	4.8	粘土は5Y7/1灰白色。内面に施釉。5Y5/2灰オリーブ色に発色。高台は貼付けの輪高台。	A区溝38セク第1層、3H、12/05	141
198	灰釉陶器	碗	20.6	6.7	径1～5mmの砂粒混、2.5Y7/1灰白色。釉は5Y7/2灰白色に発色。内面に施釉。	A区溝38上層、4H、12/12	149
199	灰釉陶器	壺蓋	9.9	2.8	粘土5Y6/2灰オリーブ色。釉は外面に施され、5Y7/2灰白色に発色。径1mm以下の砂粒わずかに含む。	A区溝38中層、7H、12/15	211
200	灰釉陶器	壺蓋	11.3	3.0	5Y6/1灰色。	A区溝38、2H西部、11/22	44
201	灰釉陶器	短頸壺	5.9	12.8	粘土は7.5Y8/2灰白色、釉は7.5Y4/3暗オリーブ色に発色。底部内面にも降下輪がかかる。高台は貼付け。	A区溝38上層、4H、12/12	150
202	土師器	杯	19.3	3.3	7.5YR5/6明褐色。	A区溝41上層、4G、11/18	5
203	土師器	皿	16.8	1.4	7.5YR7/4にぶい棕色。	A区溝41上層、4G、11/18	6
204	緑釉陶器	小碗	9.9	3.3	内外面ミガキ、全面施釉。高台或面に糸切り痕あり。粘土10YR8/2灰白色、釉2.5Y6/6明黄褐色。	A区溝41、3Gセク西、11/22	74
205	土師器	碗	13.8		粘土は10YR7/4にぶい黄棕色。	B区溝24、4A、11/30	225
206	土師器	皿N小	9.1	1.9	7.5YR8/4浅黄棕色。	A区土層86土器集中部、6G、11/22	76
207	土師器	皿N小	9.8	1.8	粘土に径1～2mm程度の砂粒含む。7.5YR8/3浅黄棕色。	A区土層86土器集中部、6G、11/22	77
208	土師器	皿N大	13.8	1.7	粘土に径1～2mm程度の砂粒含む。7.5YR8/4浅黄棕色を呈す。	A区土層86、6G、11/22	75
209	土師器	皿N大	14.2	2.4	粘土に径1～2mm程度の砂粒含む。10YR8/3浅黄棕色。	A区土層86土器集中部、6G、11/22	79
210	土師器	皿S	12.6		7.5YR7/4にぶい棕色。	A区土層86土器集中部、6G、11/22	78

※「セク」は「セクション」の略

報告書抄録

ふりがな	へいあんきょうさきょうにじょうにほうに・さんちょう、にじょうじょうきたいせき							
書名	平安京左京二条二坊二・三町、二条城北遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	上村憲章							
編集機関	古代文化調査会							
所在地	〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地125-1404							
発行年月日	2012年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうさきょう 平安京左京 にじょうにほう 二条二坊 に 二・三町、 にじょうじょうきたい 二条城北遺 せき跡	きょうとしかみぎょうく 京都市上京区 わらやちやう 藁屋町536- 50	26100		35度 00分 58秒	135度 45分 00秒	2011.11.01 ～ 2011.12.20	233.1 m ²	マンション 建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
平安京左京 二条二坊 二・三町、 二条城北遺 跡	都城跡・集落跡	平安時代～江戸時代	平安時代前期の大炊御門大路の北側溝、南側溝及び冷泉院北限溝、江戸時代遺構の注穴、溝状遺構など	土師器碗・杯・皿・高杯・甕、須恵器杯・鉢・壺・硯、緑釉陶器碗・皿・壺、灰釉陶器碗・皿、黒色土器碗・皿・甕、瓦類	昭和57年東隣の敷地調査で検出した冷泉院北限溝の西側への広がりを確認する			

圖 版



1 調査地近景（北から）



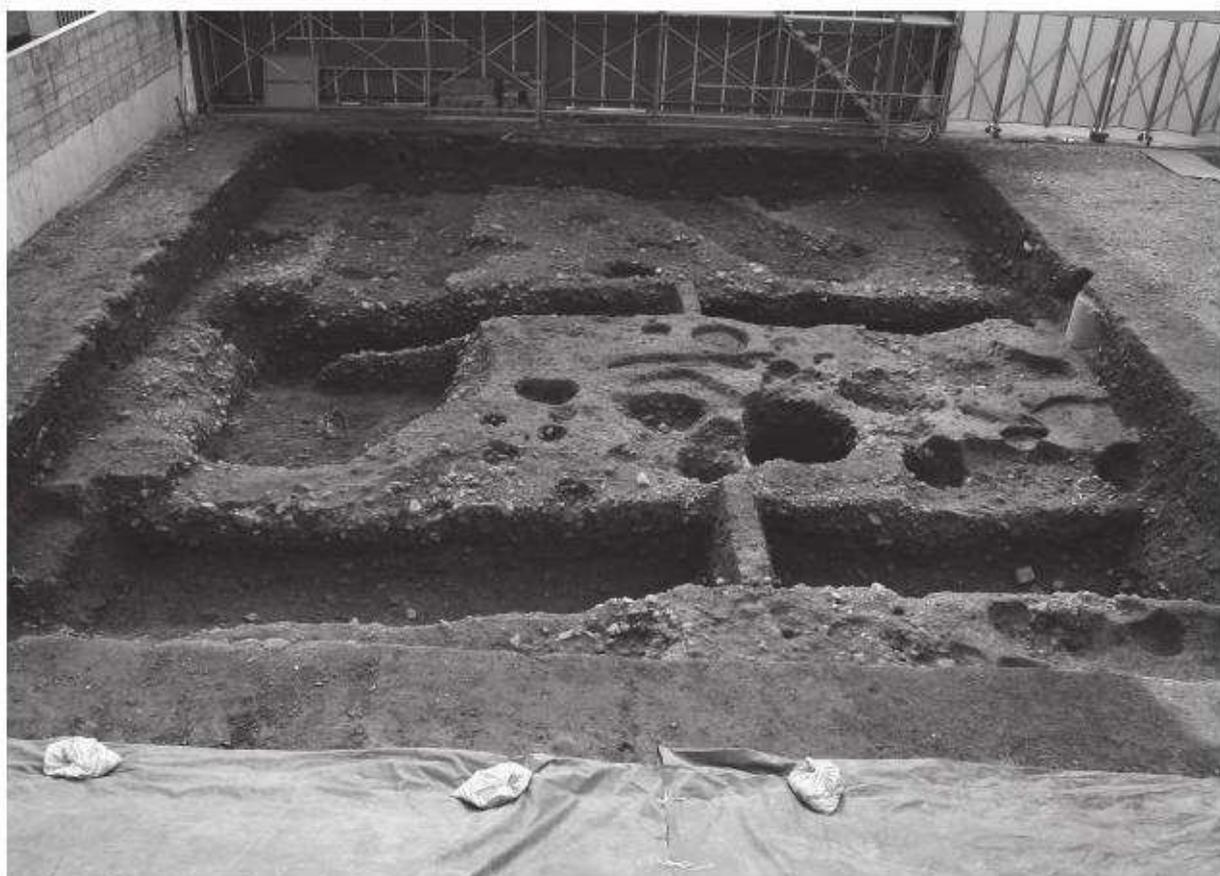
2 A区第I面東部（北から）



1 A区第1面西部（北西から）



2 B区第1面全景（東から）



1 A区第2面東部（北から）



2 A区第2面全景（北東から）



1 A区第2面中央部～西部（北東から）



2 A区第2面中央部～西部（北西から）



1 A区第2面東部（西から）



2 A区第2面西部（西から）



1 A区第2面中央部～西部（東から）



2 B区第2面全景（東から）



1 B区西部拡張部（南東から）



2 B区西部拡張部・溝27（南東から）



1 A区溝38(東から)



2 A区溝41(東から)



3 A区溝38西壁断面(東から)



4 A区溝41西壁断面(東から)



5 A区東溝38西側断面(東から)



6 A区東溝41西側断面(東から)



7 A区溝38 Y-22,810 セクション断面(西から)



8 A区溝41 Y-22,810 セクション断面(西から)



1 A区東壁溝38(西から)



2 A区東壁溝41(西から)



3 B区溝27(西から)



4 B区全景(南西から)



5 B区礎石12(北から)



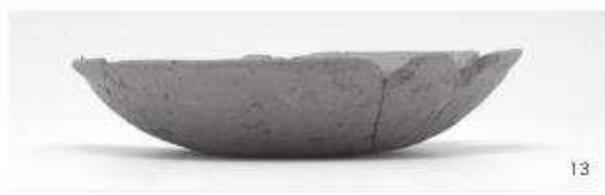
6 A区Pit52(東から)



7 A区Pit87(手前)、Pit88(奥)(東から)



8 A区Pit62(東から)



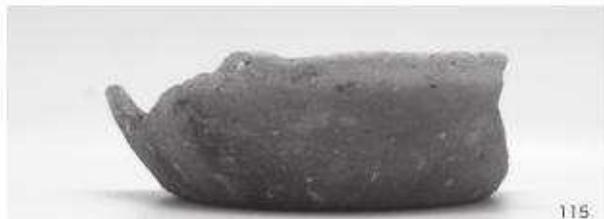
A区溝38出土遺物



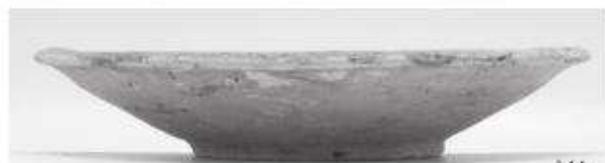
A区溝38出土遺物



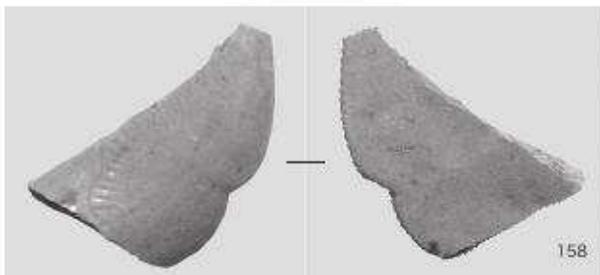
A区溝38出土遺物



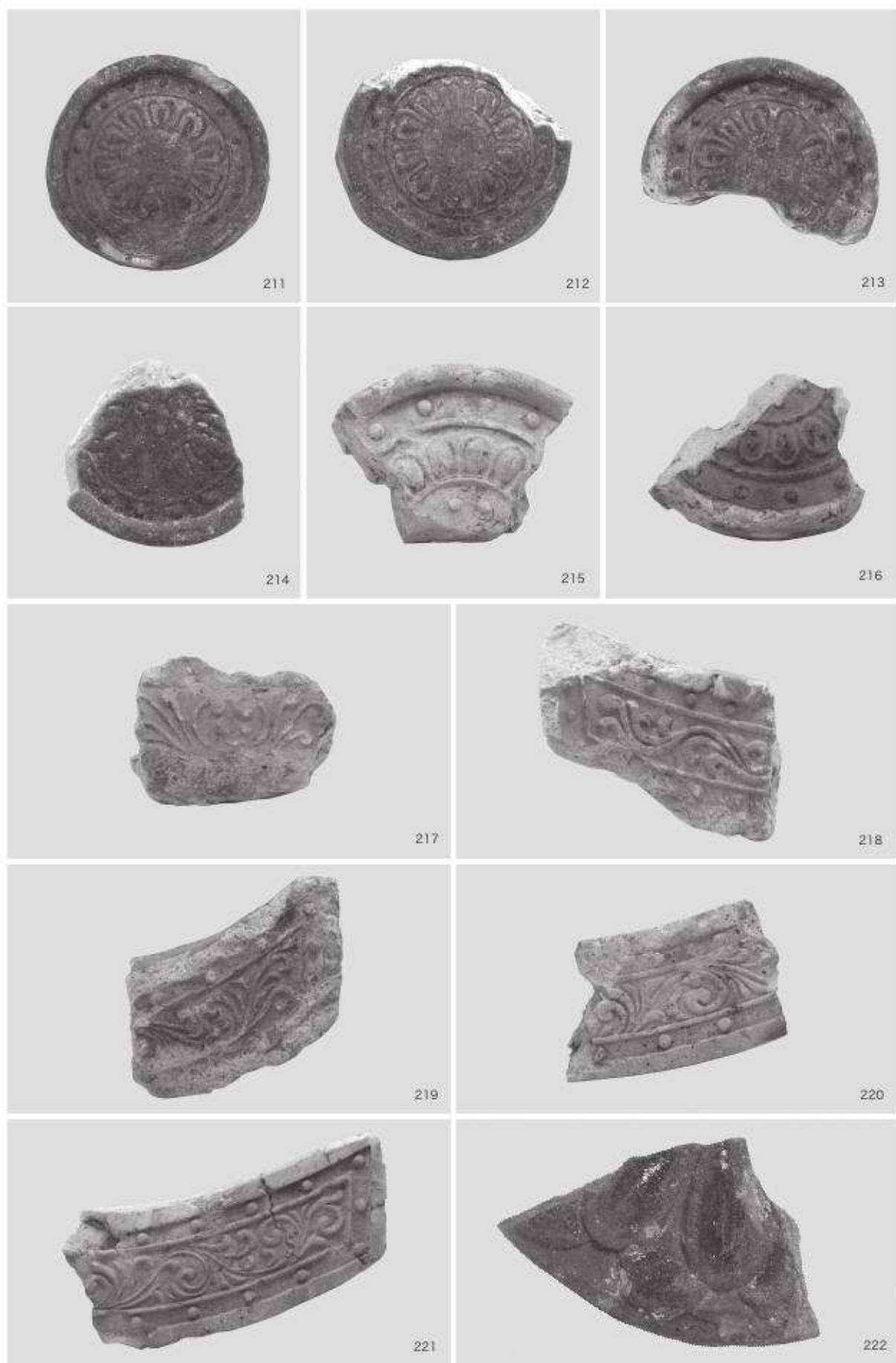
A区沟38出土遗物



A区溝38出土遺物



A区溝38 (158·185·186·191~193·197~199·201)·A区溝38最下層 (2·4)·A区溝41 (203·204)
出土遺物



A区溝38 (211 ~ 214 · 217 · 218 · 221) · B区溝27 (216) · A区土壙03 (215 · 222) · A区土壙17 (220) · A区攪乱 (219) 出土遺物

平安京左京二条二坊二・三町
二条城北遺跡

発行日 2012年3月31日

編集
発行 古代文化調査会

住所 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1-4-125-1404
TEL (078) 857-6368

印刷 (有)京都編集工房
〒612-0868 京都市伏見区深草直違橋南1-524-24
TEL (075) 643-6978